

#### 4. 合同委員会の協議概要(第1回～第3回)

##### (1) インドネシア養蚕開発協力プロジェクト

###### 第1回Joint Committee の概要

◎ 日 時：昭和53年12月23日(土曜日) 1000～1500

◎ 場 所：Departmen Pertanian, Direktorat Jenderal Kehutanan Jl. Salemba Raya No.16, Jakarta

◎ 出席者：インドネシア側 - Ir. Moch. Harris Suranggadjiwa (議長), Ir. A. Sanusi Kusumaputra, Drs. Sutarto, Drs. M. Parawansa, Ir. Rafiuddin Achlil.

日 本 側 — 青木チームリーダー, 船坂調整員, 藤原・杉山両専門家, 宮本 JICAジャカルタ海外事務所長, 石川大使館二等書記官(オブザーバー)

◎ 会議進行：

1. 議 長 挨拶

2. インドネシア側委員紹介(議長)

3. 日本側委員紹介(宮本所長)

4. 会議の進め方について日本側より提案, —「日伊両国局Agreementの各パラグラフ毎に逐条, 検討, 各項目につき, 日伊双方に問題がなければ次へ進むという方法を取り, 問題点については, 双方が用意した参考資料を必要に応じてその都度引用検討する方法」— 伊国側賛成。

◎ 会議に提出された参考資料

###### 日本側用意

1. Aoki K.: Outline of the Sericulture Development Cooperation Project in Indonesia (20, Nov. 1978), pp.7

[[Appendix]]

Table 1. Circumstances of the Sericulture Development Cooperation Project (1 Sep. 1978)

Table 2. List of Equipments and Materials for Sericultural Development Project (Japan)

Table 3-1,2,3. Indonesian budget for the project.

Table 4. Training in Japan (1976 - 1978).

Table 5. Subject matters and their annual schedule of the sericulture development cooperation project in Indonesia.

Table 6. Sericulture in South Sulawesi — Present and Development.

Fig. 1. Organization of Sericulture Development Cooperation Project.

Fig. 2. do

- Table 7. do
- Fig. 3-1. Buildings at Sericulture Centre
- Fig. 3-2. Buildings at Sericulture Sub-Centre
- Fig. 3-3. Buildings at Tanak Bellange (Sub-Centre)
- Fig. 4. Delivery of Silkworm Eggs

2. Reports of the Sericulture Development Cooperation Project

- No. 1: Sumida H.: How to increase the production of silkworm eggs in Indonesia, 30 Jan. 1977, pp.3
- No. 2: Fujiwara S., H. Sumida, J. Nakamura, M. Takatori: On the Sericulture of PERHUTANI in East and Central Java. 3 Apr. 1977, pp.9
- No. 3: Aoki K., M. Takatori, S. Fujiwara, H. Sumida, J. Nakamura: Field guidance at Enrekang. 10 June 1977, pp.4
- No. 4: Aoki K., S. Fujiwara, Z. Sumardjito, M. Sindung, N. Hidayat: On the establishment of mulberry field at Tanah Bellange, Watan Sopping. 9 Oct. 1977, pp.7
- No. 5: Fujiwara S., Z. Sumardjito: Matters demand special attention on mulberry-cutting. 1 Nov. 1977, pp.2
- No. 6: Aoki K.: Pebrine-disease of silkworm. 10 Nov. 1977, pp.8
- No. 7: Aoki K., S. Fujiwara: Outline of technical advice in Java. 16 May 1978, pp.7
- No. 8: Nakamura, J., M. Takatori, S. Fujiwara, Iyus R.A., P. Sukaradiman, N. Hidayat, M.S. Chairudin, A. Muis, Mathias: Record of the candidates for Technique-Demonstration Pilot Unit. 18 Oct. 1978, pp.8

3. Outline of the technical guidance in the Sericulture Development Cooperation Project (December 1976 - October 1978).

- (1) Fujikwara, S.: Moriculture technique. pp.3
- (2) do : Establishment of mulberry field. p.1
- (3) Suzuki T.: Interim report on the model infrastructural project for the Sericulture Development Cooperation Project. pp.3
- (4) Sugiyama H.: Technique for egg production. pp.4
- (5) do : Construction of refrigerator at the Sub-Centre. p.1
- (6) Takatori M.: Rearing technique of young silkworm larvae. pp.3
- (7) Nakamura J.: Rearing technique of grown silkworm larvae. pp.3
- (8) Inoue H.: Control of silkworm diseases, pest insects and mulberry diseases. pp.2

## インドネシア側用意

1. Agreement between the Government of the Republic of Indonesia and the Government of Japan concerning technical cooperation in the field of sericulture.
2. Operation plan proyek kerjasama teknik persuteraan alama (ATA-72).
3. Pengadaan tenaga.

---

### Agreement の各 Article 逐条審議経過概要

(問題のなかった Article については触れない)

Article I - 2 : operational work plan については、Joint committee でつくられるものであるが、Joint committee で取り上げる前に、日伊双方の関係者によって案を作る。

Article III - 1 : 日本からの供与機材金額の事前通報を希望する (イ側) — 後刻検討

Article IV - 1 : 日本における研修員の増加 — (イ側) — 今までは研修員として送るべき counterpart の絶対数が少なかったのが実情である。Counterparts の拡充によって増加することもできるであろう。但し Trainee は日本語又は英語を事前に勉強しておくこと (青木)、そして帰国後は当 Project で働くこと (石川)。

Article VI - 2 (a) : 協定前の 1977 年度はイ国側の予算の執行が遅れたため等により建物建設が遅れたが、協定移行後は急速に進捗しつつあるので、現在のテンポで明年 5 月までには完了されたい (青木)

Article VII - a : Sub-centre から Tanah Bellange への道路・橋の工事は速やかに着手されたい (日本側)。この件については Bapenas の予算流用承認から 1 カ月以内に project に対し予算支出されるであろう (Sanusi)。

Article VII - b : Custom duties については、今までイ国側の措置がおくれたが、今後は速やかに事が運ぶように努める (Sanusi)。

Article VIII - 1 : Counterpart の訓練のみならず、農民対象の普及用の資料 (手びき) も作ってほしい。また多数の農民へ技術の展示をしてほしい — 後刻検討 —

## 当 Project の問題点

### 「イ」国側からの提示

#### 1. 日本からの供与機材

#### 2. 協定 5 カ年度の機材供与の年次別リストを作成してほしい。

「1 及び 2 については、日本の予算システムが単年度制であり、年度予算いくらという風には事前に決定連絡することはできないが、1 国側の要望事項として、どんな機材が年度毎に必要であるか聴取可能」

#### 3. 日本における研修について、研修科目・人員・期間・資格等について information がほしい。

「1979 年度の日本研修については、人員・研修科目について、Mr. Sanusi と既に 4 名（一般）+ 4 名（視察）と話し合っている旨を説明した。今までは Counterpart の採用がむづかしく日本研修が計画どおりには進まなかったが、今後は十分な採用も見込まれるので、多くの日本研修ができるようにしたい」

#### 4. Counterpart に対するのみならず、農民に対する技術指導もしてほしい。

「日本人専門家の技術指導は、主として Centre における Counterparts を対象に行なわれ、それによって確立された技術は、Sub-Centre において、現地適応試験の後、養蚕主要地帯に設けられる 5 カ所の技術展示所で養蚕農家に展示されて技術の滲透を図ることになっている」（後刻 Farmers' Groups のところで再び触れる予定である）。

### 日本側からの提示

#### 1. 林業総局における蚕糸行政組織の不備

（参照：日本側用意資料 1 の 2～3 頁，5 頁，第 1～2 図，第 7 表）

3 頁の図でみるように、当 Project の効率的運営の点からみて、現在の蚕糸行政組織は極めて不備且つ不自然であるので、蚕糸担当行政組織を林業総局内（Jakarta）に可及的速やかに新設することが望ましい（現在 Ujung Pandang には、1 国側の決定責任者が不在のため、事毎に Bogor に照会する必要があり、相互の連絡には多くの日時を要する）。

※ 「Harris 議長：来年度から Bogor に在るすべての責任・権限を Ujung Pandang に移行する」；この議長の説明は日本側にとっては初耳であった（今回の Joint Committee に先だって開かれた 1 国側委員のみによる 2 回にわたる会議の結論であるといわれる）。

#### 2. Counterparts 等について

（参照：日本側用意資料 1 の 3～4 頁，第 5 表）

本年 2 月 28 日 Agreement 前には 5 名に過ぎなかった Counterparts が、Agreement 後は 1 国側の努力によって大学卒業者の新規採用等があり現在それらの候補者を含めて 11 名に達したが、所要人員 17 名（Centre 14, Sub-Centre 3）を可及的速やかに補充することが望

ましい。

「Mr.Sunsi : Agreement の Annex IV のインドネシア人専門家その他職員の表の合計 54 名のうち、28 名は既に充足、残り 26 名については来年度中に全部補充する」

### 3. 州・郡・村等における蚕糸行政組織の必要性

(参照：日本側用意資料 1 の 6～7 頁及び第 4 図)

養蚕技術の普及・浸透の立場からばかりでなく、養蚕の計画的安定経営の面からみて、州・郡・村等における蚕糸行政組織が必要と思われる。南スラウェシの養蚕は従来一般に無計画であり、その技術も稚拙で生産性は極めて低い。イ国当局は自主多化性蚕をやめて、日本から輸入の F<sub>1</sub> 及び大統領援助 Project で生産される F<sub>2</sub> 蚕種の飼育をすすめてきたが、これら蚕種の総量は、従来養蚕農家の飼育意欲を満たすには極めて不十分だと言われていた。

ところが本年 9 月に折角製造された F<sub>2</sub> 蚕種 1,101 箱のうち 331 箱はこれを焼きすてたという。その理由は、糸価の低落・F<sub>2</sub> 蚕の質・養蚕労力の他への移動などであったといわれる。F<sub>1</sub> 蚕種の輸入・F<sub>2</sub> 蚕種の製造ならびにそれらの配付の実情は、第 4 図に示すとおりであるが、今後もこのような事態が繰り返されるとすれば、南スラウェシにおける今後の繭生産、生糸生産の目標は極めて不安定なものとならざるを得ない。

日本側用意資料 1 の第 6 表は、日・イ両国関係者が打ち合わせの結果得られた南スラウェシ養蚕の現状及び 5 年後の目標であり、この目標は、現在の技術が養蚕農家まで浸透し、且つ養蚕農家の飼育意欲さえあれば、技術的には容易に達成できるものである。しかし今後若し上記のような事態が繰り返される場合は、第 6 表に示す生産目標などは紙上の空論とならざるを得ない。

この問題の解決は極めてむづかしいと思われるが、イ国政府指導のもとに、BKUP と大統領援助 Project との間の緊密なコミュニケーションによって打開すべきものと考えられる。また南スラウェシ州全体として現在及び将来において蚕種をどれだけ必要とするかの見通しについても、養蚕以外の農業その他産業との関連において、検討する必要があるであろう。それらの検討の結果、従来言われてきたとおり、現在の蚕種量では農家の養蚕意欲を満たすに不十分であるという結論であれば、日本側としては、これに対応する措置について検討したい。

「Harris 議長：大変むづかしいが大切な問題であるので日本人専門家に参加して貰いたい」

「日本側：技術的な問題ではなく、繭・生糸という Marketing を主体とした問題であるので、現在の専門家ではむづかしい」

「Harris 議長：Agreement の Annex 2 によって、その方面の専門家の短期派遣はできないか」

「日本側：適当な人がいるか否か検討してみたい」

#### 4. Farmers' Groups について

(参照：日本側用意資料 1 の 4 頁 及び同じく 2 の No. 8)

日・I Agreement の中に、「Sub-Centre で確定した養蚕技術を農家に展示するために、Soppeng, wajo, sidorap 及び Enrekang 県にそれぞれ 2, 1, 1 及び 1 カ所の Farmers' Group を設ける。Farmers' Group は既存の Group の中から選び、それらの詳細については、Joint Committee で決める」となっている。

この Farmers' Group は、稚蚕を飼う稚蚕飼育所と壮蚕を飼う農家で構成され、さらにそれぞれに適当な桑園があることが必要である。

日本人専門家及びインドネシア関係者が共同で既存 Groups の中から、Farmers' Group 候補として最も好ましいものとして選んだものが Report No. 8 に示したものである。

しかし No. 8 の表に概括したとおり、何れの候補についても Farmers' Group として欠点が見られる。飼育室の構造とか所属桑園などについては、少しく改造ないし改善を加えることによつて解決できるが、最も問題となる点は、稚蚕飼育所の多くが、民家或いは養蚕農家と余りにも近接していることであり、この点は既存の Groups の何れにも共通しており、蚕病予防の目的で行なり必要のある消毒の面からみて極めて具合が悪い。

従つて、もし予算が許すならば、既存の Group の稚蚕飼育所の使用は断念して、新たな稚蚕飼育所を民家或いは養蚕農家から離れた場所に設けることが望ましい。

#### 5. Joint Committee の開催

Record of Discussion 期間、つづいて Agreement 期間を含めて現在まで約 2 カ年にわたり、今回初めて第 1 回目の Joint Committee の開催をみたのであるが、Joint Committee は、当 project の重要事項の決定等の使命をもつものであるので、今後は 3 カ月に 1 回の割合で、Jatarta 及び Ujung Pandang で交互に開催する(但し必要な場合は随時開催する)

なおこれに関し、Joint Committee 連絡事務局を設けて、日本側からは調整員が参加し、I 国側の窓口は Mr. Sanusi とする。

#### そ の 他

Harris 議長の開会挨拶の中に、「現在の project の技術協力は、栽桑・蚕種製造・育蚕・病虫害防除など繭増産までにとどまっているが、繭の加工 — 製糸 — ひいては織物までの技術援助を願えないものか?」というのがあった。

これに対し、宮本ジャカルタ事務所長は、「そのような要望の出てくるのは歓迎するが、インドネシアでは先ず今の段階ではとにかく繭の増産が急務である」と答えた。

I 国側としては、大統領援助関係の製糸所がある関係などから、製糸関係専門家の短期派遣・製糸関係 Trainee の日本派遣などを希望しているようであるが、今回の Joint Committee の席上では特にこの点について積極的に触れてこなかった。

(以上)

昭和 53 年 12 月 24 日

青 木 清

(追記)

A 以上は、Joint Committee の席上、青木が発言しながらとったメモによるものであり、多少の誤り或いは落ちがあるかも知れない。

Joint Committee の正式の記録は、後刻、船坂調整員及びインドネシア側の記録を照会して JICA ジャカルタ事務所によって作られることになっている。

B 会議は、宮本所長の慎重な配慮により、特に英語だけによって進められた。

(2) 第 2 回ジョイントコミッティの概要

1. 開催日：昭和 54 年 11 月 19 日
2. 場所：ウジェン・パンダン
3. 参加者：(1)委員オブザーバー

インドネシア側

農業省林業総局植林保全局長(委員長)

理 事 長

農業省林産局代表

” 林業総局書記官

” 林業計画局代表

” 計画局代表

南スラウエシ州政府代表

日 本 側

専 門 家 団 長

専 門 家

”

”

”

連 絡 官

日本国大使館

ウジュンパンダン日本国総領事館

(2) 書 記

農業省林業研究所

Ir. Apanpi Mangundikoro

Ir. J. Suropto

Ir. Yaman Siahaan

Ir. Sumitro Sumarno

Ir. Harsono Rek. Somardoyo

Ir. Nyoma Ardha M. Se.

Drs. M. Parawansa

Dr. N. Mori

Mr. S. Fujiwara

Mr. J. Nakamura

Mr. H. Sugiyama

Dr. H. Inoue

Mr. H. Funasaka

Mr. T. Ishikawa

Mr. K. Hata

Ir. Sanusi Kusumaputra

農業省林業総局

Ir. Rafiuddin Achlil

”

Ir. Kaomini

(3) その他

農業省林産局 1 名，農業省 1 名，農業省林業計画局 1 名，養蚕開発プロジェクト 3 名

4. 日 程

11 月 19 日 午前 8.30 - 11.00 建設中の養蚕センター（ピリピリパカト）視察

11.30 ~ 17.30 ジョイントコミッティ

なお 11 月 20 日は日伊双方で報告書を作成した。

5. 会 議

(1) 委員長による会員紹介

委員長挨拶

日本側挨拶（石川書記官）

地域代表挨拶（Parawansa 氏）

(2) 議 事

1) 経 過 報 告

① 日本側（森日本人専門家団長）

- (A) 南スラウェシ養蚕の特色とその発展の可能性について特にタイ国の養蚕と比較して、多化性キョウソが居ないため蚕室構造が簡易でよいこと、桑の根腐れ病がない事等からインドネシア養蚕は著しく優位にあること、また南スラウェシには伝統的な絹織物の家内工業があり、絹の礼装用サロンとして需要もあり、養蚕業は国内産業としてもまた国際的産業としても発展し得る素地があり、これを実現するための行政および技術開発の必要性が強調された。

(B) 養蚕開発 5 年計画（案）作成の基礎的考え方

本養蚕開発計画における技術の開発は、蚕病防除を中心とした農家に普及し得る技術の開発にある。その基本は「病源から蚕をどのように隔離するか」にある。開発しようとする技術は

- ① 稚蚕飼育は十分消毒できる環境での完全な消毒飼育
- ② 壮蚕は今までの高床下の蚕室から、独立した簡易蚕舎での飼育法および 4 令簡易蚕舎、5 令高床下飼育法の開発
- ③ 桑は少肥又は無肥料下で最良の品種を選出し、その栽培方法を明らかにする。また桑品種を各地から集める。
- ④ 蚕種製造は一蚕期 2,500 箱の無毒蚕種を生産する方法を確立する。蚕の品種改良は重要ではあるが、短期間には良い結果は期待できない。



⑥ 高床下の蚕室にも使用出来る消毒方法を検討すると共に南スラウェシで多量に生産される石灰を利用し飼育環境を浄化する方法、少量の農薬で最大の効果をあげ得る方法の開発

これらの技術は1981年中頃までにその枠組を作り、その後演示指導に力を注ぐ。

訓練では、カウンターパートはこれから2ケ年間、特に日本人専門家から技術を開發する方法について訓練を受ける。1国の推薦する技術者(指導員)は農家の技術指導が出来るよう技術への理解を深めること。農民の訓練はカウンターパートが当るが、専門家は指導の方法を指導する。この訓練は技術開發がある程度進み、演示指導が開始される前に開始される。

演示の指導では、演示する技術は直接そのまま農家が利用出来る技術であること、そのため先ずセンターで稚蚕、壮蚕飼育施設を試作し、更にユニットNo.3 (Soppeng)の稚蚕飼育所の改善を試み、これらの経験を通してパイロットユニットでの演示を指導する。

(C) 1979/80 事業計画、1980/81 年事業計画および過去1ケ年間の事業実施の状況

各年次の事業計画は5ケ年計画(案)を基にして各専門別に作成した。79/80年計画では更に月別の作業計画が各分野ごとに作成され、インドネシア側へ前月の7日に提出している。これら月別作業計画作成上の最大の難点は、輸入蚕種の到着日が、到着の直前か当日でないと判らない事が往々にしてあることで、これでは蚕種の製造、蚕飼育、蚕の病害防除の実験計画を予め計画することが困難である。

80/81年計画は来年度予算要求の参考とするため作成した。インドネシア側で整備を必要とすると考えられる建物施設等、事業の実施に必要であると考えられる機械を表示した。

第1回ジョイントコミッティ後、この9月までの各分野の業務実施状況を、技術指導、試験調査の目的と結果の概要に分けて、それぞれの分野毎にまとめてある。これらの事業計画と成果はそれぞれの専門家から後刻説明する予定である。(専門に渡ると云うことで説明は省略した)

更に今まで日本側で協力した供与機材、施設整備、研修員の受入れ等の表を提出した。

② インドネシア側(スレプト プロジェクト マネージャー)

養蚕開発協力計画(ATA72)の日本人専門家、日本から供与された機材費、日本における研修、カウンターパート、アシスタントの現状と充実計画、桑園の造成、建物の建設状況技術開發について簡単な総括報告があった。

## 2) 討 議

① 79/80年度の事業計画と経過報告は2,3の数年等を訂正し承認された。

② 養蚕開発5ヶ年計画(案)について

内容についてはジョイントコミッティのメンバーには蚕系の専門家が居らないので論議するまでに到らなかった。ただ、この計画が技術開発、施設整備と事業、訓練、演習指導に分類され配列されているが、協定の基本計画に従いセンター、サブセンター、パイロットユニットの順に配列した方が理解し易いとの意見がインドネシア側から出された。

これに対し日本側は、現在のように事業の性質によって区分して計画を示す方が計画は簡単明瞭となり理解し易い、これを実施場所別に分けるとかえって複雑になるので現在の項目の末尾へ基本計画の番号を入れて両者の関係を明瞭にすることを提案、イ国提案は参考意見と結論された。

③ 80/81年計画について

ここに提案された年度に必要とする施設、建物等については予算化に努力する。また次のジョイントコミッティで更に検討することになった。

## 3) その他の問題点の討議

① 養蚕開発協力計画の組織について

森リーダーが提案理由を説明この組織の円滑な運用が技術協力の実施に必要であることを強調すると共に、インドネシア側の予算執行が別の組織をもって居り、その中ではセンター → サブセンターの関係がなくそれぞれ独立しているため、技術協力の組織に従って事業をセンターからサブセンターへ流す場合予算を伴わなないために事業の実施に円滑を欠くようなことがないよう特に要望した。

インドネシア側からこの組織図の中の破線で書き入れてある組織は不要ではないかとの意見が出され、日本側はこれに同意した。日本側はこの破線はあくまでも参考として示したもので、養蚕開発協力計画と裏腹の関係にあるイ国のプロジェクトとの関係を明らかにしようとしたものに過ぎないと説明した。

② カウンターパートとアシスタントについて

森リーダーから提案カウンターパートは本技術協力において技術を移植する相手であり、極めて重要であるので職務に専心できるよう待遇等について特別な配慮をするよう、インドネシア側へ要請した。

インドネシア側としては、これは本プロジェクトのみならず全体の問題であるので検討したい旨回答があった。

③ 蚕種供給の組織について

③ 蚕種供給の組織について

森リーダーから提案理由が説明され、農家が要望する時期に供給できる体制を作ることおよび輸入を計画的にして、南スラウェシ生産の卵の配布時期と重ならないよう配慮されたい旨、資料を添えて提案した。

なお次回のジョイントコミッティの開催について論議し、来年1月下旬、ジャカルタで、次年度計画を主要議題として開催することとし、12月中旬具体的計画をメンバーに連絡することとなった。

(別 添)

JOINT COMMITTEE ATA - 72  
AGRICULTURAL DEVELOPMENT PROJECT

REPORT OF THE SECOND MEETING  
OF  
JOINT COMMITTEE ATA - 72

Joint Committee ATA - 72 at its second meeting on November 19, 1979 in Ujung Pandang, South Sulawesi, has been attended by its members and representative whose names listed in the enclosed list. At that meeting several conclusions have been made :

1. The progress report of the project till November 1979 that had been given by DR. K. IKI (Team Leader) and Ir. J. SURIPTO (Project Manager) has been taken interest and accepted, and can be summarized as follows :
  - (1). Experts (long term assignment) have been fulfilled accordingly to the a Agreement Annex II, consists of 6 persons :
    - Person as Team Leader.
    - Person in the field of sericulture.
    - Person in the field of egg production.
    - Person in the field of silkworm rearing.
    - Person in the field of pest and diseases.
    - Person as liaison officer.
  - (2). Equipment that has been received from the Government of Japan till November 1979 covering the value \$ 386 million, consist of :
    - Equipment for silkworm rearing and egg production.
    - Laboratory instruments.
    - Agricultural machineries.
    - Fertilizers and chemicals.
    - Training and demonstration facilities.
    - Vehicles.
    - Irrigation facilities and others.

In 1979/1980 the equipments will be expected covering the value of \$ 47 million and it will continually last in the following years for Centre and Sub Centre.

- (3). Training for technical staff in Japan till November 1979 had been given to 9 persons, each of them for 8 months. Beside that 5 officials have the

opportunity to observe the sericulture activities in Japan. It is being planned to train more 3 technical staff as that training allocation in the fiscal year period 1979/1980.

(4). Counterpart have been fulfilled 11 persons out of 17 persons needed according to the Agreement Annex IV. The rests will be soon recruited in the near future. Technical staff has been fulfilled 17 persons out of 37 persons needed according to the Agreement Annex IV. The rests will be soon recruited whenever the activities in Bili-Bili can be started.

(5). Mulberry field at Bili-Bili Centre has been established 3 Ha, according to the plan. Whereas at Sub Centre that has been planned 19,5 Ha, it has been established 19 ha, and the rests of 0,5 ha will be for grass land.

(6). Building establishment and other facilities in this cooperation project are :

a. At Bili-Bili Centre 14 units are planned and 6 units have been finished, and the rests 8 units are being completed.

All the buildings are expected to be finished within this fiscal year 1979/1980.

b. At Tajuncu Sub Centre (Soppeng) 10 units are planned and all can be finished within this fiscal year 1979/1980.

Some additional buildings and facilities have to be established to improve the functions of the main building already established.

(7). Testing of sericulture technic to be improved for moriculture, silkworm egg production, silkworm rearing and control of pest and diseases have been carried out by the experts and counterparts by using the facilities already provided at Sub Centre.

These activities will continually increase in the future in accordance with the improvement of facilities both at the Centre and the Subcentre.

2. The fine year plan and the annual operational work plan of the project have been agreed in the Joint Committee in principle, however, the Joint Committee has made some notes mentioned-below according to the attendants' responds, proposals and suggestions.

(1). The budgetary flow for the project is expected to be along with the structure of the organization of the project as said by the Agreement.

(2). Other sericultural activities not included in the Project ATA - 72 have

to synchronize with the Project ATA - 72.

This is the duty of the Government of Indonesia and not to be imposed on the Project ATA - 72.

(3). The proposal suggested by experts about the additional buildings and facilities for the improvement of the buildings already built according to the plan, is accepted as materials for composing the working plan in the following years and the establishment will be in accordance with the available budget.

(4). The grouping of activities in making of the five years schedule was suggested by Indonesian side to be systematized as the order of master plan as said in the Agreement Annex I.

(5). For the purpose of convenience of the following meetings, the reports should be compose with consistency in the following systematic :

- (a). Exports.
- (b). Articles and equipments.
- (c). Trainings.
- (d). Counterparts.
- (e). Mulberry fields.
- (f). Buildings.
- (g). Technical activities.

(6). It is necessary to give some attention to the counterparts as candidates of Indonesian experts as they can characterize in the professional dedication and to build up the working enthusiasm by giving them a priority to be Government officials and other incentives.

3. The next Joint Committee meeting will be held at the end of January 1980 with the main agenda discussing 1980/1981 implementation plan.

The secretary of Joint Committee is expected to deliver the subject matters to the members at the end of December 1979.

UJUNG PAIDANG, NOVEMBER 19<sup>th</sup>, 1979.

JOINT COMMITTEE ATA-72  
SERICULTURAL DEVELOPMENT PROJECT

---

REPORT OF THE THIRD MEETING  
OF  
JOINT COMMITTEE ATA-72

Joint Committee ATA-72 at its third meeting on June 16 in Jakarta was attended by its members and representatives whose names were listed in the enclosed list. At the meeting, several conclusions were made.

1. PROGRESS REPORT ON SERICULTURAL DEVELOPMENT PROJECT

I. Implementation

The progress report of the project till June, 1980 that had been given by Ir.J. Suropto (Project Manager) and Dr.N. Mori (Team Leader for Japanese Experts) has been taken interested, discussed thoroughly among the members and accepted.

The contents can be summarized as follows :

(1) E x p e r t s

The Japanese experts for long term assignment have been fulfilled accordingly to the agreement annex II, consist of six (6) persons :

- Team Leader
- Expert in the field of moriculture
- Expert in the field of egg production
- Expert in the field of silkworm rearing
- Expert in the field of pest & disease control
- Liaison officer.

Two Japanese experts Mr.H. Sugiyama (egg production expert) and Dr.H. Inoue (pest & disease control expert) have been recently replaced by newly assigned two experts who arrived in Indonesia on June 6, 1980. Mr.H. Sugiyama and Dr.H. Inoue are returning to Japan on June 18, 1980 after completing their two year assignment in the project.

## (2) Articles and equipment.

The articles and equipment that have been received from the government of Japan till June, 1980, covering the value of ¥ 498 million, consist of :

- Equipment, machinery, instruments for rearing silkworm and producing silkworm eggs.
- Equipment, machinery, instruments for laboratory works
- Agricultural machinery for mulberry field
- Fertilizer and chemicals
- Vehicles
- Teaching and training materials
- Facilities for irrigation and others.

For the fiscal year 1980/1981, the equipment is estimated covering the value of ¥ 53 million to ¥ 69 million and the supply will be continued in the following years for Centre and Sub-centre.

## (3) Training

So far, nine (9) counterparts have completed eight-month training in Japan, and three others are now under six-month trainings beginning May, 1980. Only seven (7) of 17 counterparts working in the project have no opportunity yet to participate in the training in Japan.

In addition, five (5) officials have had opportunities of observing sericultural activities in Japan.

## (4) Counterparts

Fourteen (14) counterparts out of 17 counterparts needed to be assigned according to the agreement annex IV have been fulfilled. The rests will soon be recruited in the near future.

Since the beginning of this fiscal year (April, 1980), all 37 technical staff (assistant counterparts) have been fulfilled accordingly to the agreement.



(5) Mulberry field.

The establishment of seven (7) ha mulberry field at Centre has been completed accordingly to the plan and one (1) ha grass land will be prepared in the next rainy season.

Whereas at the Sub-centre, 18,5 ha mulberry field has been completed accordingly to the plan and one (1) ha grass land will be prepared in the next fiscal year.

(6) Buildings

The buildings and other facilities to be constructed in this cooperation project are :

- (a) At Centre, all 15 units of planned buildings have been completed. Additional buildings and/or facilities will be established when they are necessary.
- (b) At Sub-centre, all ten (10) units of planned buildings have been completed. Additional buildings and/or facilities will be established when they are necessary.
- (c) At pilot units, five (5) units were planned, but not yet completed due to the necessity in adjusting with the socio-economical conditions of the farmers.

(7) Technical activities.

Technical activities on moriculture, silkworm egg production, silkworm rearing and pest & disease control have been carried out by Japanese experts and their Indonesian counterparts by using the facilities already provided at Centre and Sub-centre.

These activities are planned to be increased continually in the future in accordance with the improvement of facilities both at the Centre and the Sub-centre.

## II. Proposals and the results of discussion.

### (1) Water supply system

- (a) Short term expert for the setting of water supply system in the Centre (Bili-Bili) is expected to be assigned soon.
- (b) Budget for artesian-well in Pakatto will be requested to be furnished in the next fiscal year by Indonesian side.
- (c) Artesian-well in Tajuncu will be established within this fiscal year if Indonesian government permits to imburse the budget for Pakatto to Tajuncu. In this case, the establishment of well in Pakatto will be delayed to next year.
- (d) Artesian-well drilling and the construction of water supply system in Tanah BelangE will be completed within this fiscal year by Japanese side.

### (2) Training

At present, 14 counterparts are working actively, and ten (10) of them have so far joined trainings in Japan. In addition, three (3) more new counterparts will be recruited as soon as possible. Thus seven (7) more counterparts need to be trained.

Indonesian side proposed that the dispatch of trainees to Japan should be fulfilled before the end of this project.

Indonesian side was requested by Japanese side to speed up the processing and the presentation of forms to avoid the delay of training programme.

Indonesian side also proposed that the technician staff who manage refrigerator & machinery, as well as some qualified assistant counterparts be trained in Japan.

(3) There is rising demand in the community for locally produced and better quality eggs. The present egg production capacity is for 8.000 boxes a year. The planned capacity is for 20.000 boxes a year.

To achieve this ultimate goal, the steps have to be taken are as follows :

- (a) To give more information to the people about the activities of the project.
  - (b) To increase the extension activities to the farmers.
  - (c) To make definite schedule of importation and local production of eggs to promote utilization of locally produced eggs.
  - (d) To discover suitable area and establish necessary facilities for supporting this program e.g. in Enrekang & Malino.
- (4) Since the designed model was too costly for farmers to adapt, the establishment of pilot units has been delayed. Revision has then been forwarded to overcome this problem.

Five (5) pilot units, based on agreement, are selected in the regencies of Soppeng (2), Wajo (1), Sidrap (1), and Enrekang (1). Listed are prospective locations selected and surveyed in 1979/1980.

Joint Committee performed the determination of farmers' groups in accordance with agreement annex I (3).

Here under are prospective locations determined for pilot units :

- (a) Soppeng : - At Pising (nearby young silkworm rearing farmer unit No. 9)  
- At Lapangeng
- (b) W a j o : - Sabbang Paru (nearby reeling unit)
- (c) Sidrap : - At Wanio
- (d) Enrekang : - At Baraka

(5) Implementation of sericultural development project in South Sulawesi.

The cocoon production in South Sulawesi has unfortunately decreased last year. Therefore the increase of the cocoon production is earnestly hoped this year.

To achieve this, more effective measures on the organization of cocoon production, counselling body and the promotion of cocoon production are needed to be performed after making thorough discussion among the personnels concerned, as well as the earlier development of sericulture techniques fitted to this district.

In addition, the promotion of communication between personnels (parties) concerned in this project, and the practical-oriented training methods are requested to be discussed.

2. WORKING PLAN FOR 1980/1981.

Working plan for 1980/1981 and progress at present, proposed by Dr.N. Mori (Team Leader for Japanese experts), as enclosed has been approved by the Joint Committee.

3. OPENING CEREMONY FOR CENTRE AND SUB-CENTRE.

Both sides have agreed to hold opening ceremony at the end of August. For the preparation of the ceremony, the project has to make positive decision at latest at the end of July, 1980 and inform all those who are concerned.

4. O T H E R S

Joint Committee reviewed the recent articles on newspapers concerning the activities of the project. Since some of them had been misinformation to the public, Indonesian authorities concerned made their effort to correct those misinformation.

With these effort, it seems that the people concerned have understood the right knowledge of this project.

However, the members of the Joint Committee decided to take the actions listed below, to minimize the misinformation to the people.

I. Newspaper articles.

- (a) The project shall invite Commission C of the South Sulawesi local parliament (DPRD) for field observation of the project to give right knowledge about project activities.
- (b) The project shall intensify the communication with people through mass media for right understanding of the project.
- (c) Public relation officer will be assigned in the project.
- (d) The project shall issue an official statement explaining the activities and the goals of the project that can be used to clarify any misinformation and misunderstanding of aleready happened and might happen in the future. The project shall all the time try its best to give right knowledge of the project to the people.

II. Next Joint Committee meeting will be held one or two days before the opening ceremony for Centre and Sub-centre.

Enclosure 1.

WORKING PLAN IN 1980/1981 AND PROGRESS AT PRESENT

June 16, 1980

Explanation of mark

- + : Finished or nearly finished
- = : Performed over 70 %
- " : Performed between 70 - 30 % ; routine work
- : Performed less than 30 %
- x : Unstarted.

| T h e m e  | Pro-<br>gress | Remarks                            |
|--|---------------|------------------------------------|
| 1  | 2             | 3                                  |
| <u>SERICULTURE CENTRE</u>  |               |                                    |
| (a). Construction and management of mulberry field.  |               |                                    |
| 1. Establishment and management of mulberry field.   | "             | + Establishment of mulberry field. |
| (b). Trial experiments to develop techniques for moriculture and for the control of pests and diseases of mulberry |               |                                    |
| 1. Investigation on the ecological character of mulberry races.  | "             |                                    |
| 2. Promotion of soil fertility and technique of field maintenance of the mulberry field.                           | "             |                                    |
| 3. Control method of mulberry pests and diseases.  |               |                                    |

| 1  | 2 | 3  |
|--|---|--|
| 4. Training and harvesting method of mulberry for young and grown silkworms.   | " | + Harvesting frequency and leaf yield.<br>- Training of mulberry for young silkworm. |
| (c). Trial experiments to develop techniques for silkworm rearing and for the control of pests and diseases of silkworm. |   |  |
| 1. Protection and treatment techniques of silkworm egg.  | " | - "Sokushin" treatment of silkworm egg at natural temperature.                       |
| 2. Comparison of silkworm races.   | " |  |
| 3. Rearing technique of young silkworm.  | " |  |
| 4. Rearing technique of grown silkworm.  | " |  |
| 5. Silkworm mounting technique and improvement of cocoon quality.  | " |  |
| 6. Investigation on the ecology of silkworm diseases.  | " | + Period of lethal infection of <i>Aspergillus funghi</i> .                          |
| 7. Control method of silkworm disease and pest.  | " |  |
| (d). Production of silkworm eggs and distribution thereof to the Sub-Centre.   |   |  |

| 1   | 2           | 3  |
|---|-------------|--|
| 1. Silkworm egg production<br>2. Pebrine inspection<br>3. Scheme for silkworm egg production        | "<br>x<br>- |  |
| (e). Training of Indonesian technical staffs.   |             |  |
| 1. Training of Counterparts<br>2. Training of technical staffs at the Sericulture Centre.           | "<br>"<br>- | - Making of textbooks on silkworm disease and silkworm egg production in Indonesian Language |
| (f). Formulation of a programme for demonstration of sericultural techniques at the farmers groups. |             |  |
| 1. Planing of demonstration of sericultural technique.  | x           |  |
| <u>SERICULTURAL SUB-CENTRE</u>  |             |  |
| (a). Verifying experiments of sericultural techniques developed in the Centre.                      |             |  |
| 1. Investigation on the ecological character of mulberry races at Soppeng.                          | -           | + Investigation at the level of manured condition.   |
| 2. Control method of mulberry pest and disease.   | "<br>-      |  |
| 3. Protection and treatment techniques of selkworm egg.   | "<br>-      | - "Sokushin" treatment   |



| 1   | 2                          | 3   |
|---|----------------------------|---|
| <p>4. Investigation on the ecology and control of silkworm disease</p>  | <p>"</p>                   | <p>of silkworm egg at natural temperature.</p> <p>+ Ecology.</p> <p>= Disinfection method of larval body surface with sodium hypochlorite solution.</p> |
| <p>(b). Introduction and demonstration of the improved sericultural techniques adaptable at the farmers level.</p> <p>1. Test trials of demonstration to the farmers group.</p>                           | <p>-</p>                   |   |
| <p>(c). Multiplication of silkworm egg and mulberry shoots for cutting and distribution thereof to farmers.</p> <p>1. Silkworm egg production</p> <p>2. Pebrine inspection</p> <p>3. Shoot production</p> | <p>"</p> <p>"</p> <p>x</p> | <p>+ Production technique of F2 egg 1.000 boxes/ time.</p> <p>+ A one-by-one pebrine inspection.</p> <p>" At the Centre.</p>                            |
| <p>(d). Training of technical staffs and farmers.</p> <p>1. Guidance of Counterparts for training of technical staffs and sericulture farmers at the Sub-Centre.</p>                                      | <p>x</p>                   |   |

| 1   | 2                          | 3  |
|---|----------------------------|--|
| <p>(e). Guidance for the demonstration of sericultural technique at the farmers groups (<u>Pilot Unit</u>).</p> <p>1. Guidance on the demonstration of techniques of moriculture, silkworm rearing and control of disease.</p> <p>2. Guidance on the improvement method of farmers present technique.</p> <p>3. Technical assessment of sericulture farmer.</p> | <p>-</p> <p>-</p> <p>-</p> | <p>" On the structure of rearing house for young silkworm.</p> <p>" Guidance of individual farmer on the spot.</p> |

Enclosure 2.

LIST OF THE NAMES OF ATTENDANTS

1. Apandi Mangoendikoro, Director of the Directorate of Reforestation and Rehabilitation (Chairman).
2. J. Soeripto, Project Manager
3. Sanusi Kusumaputera, Forest Research Institute
4. M. Rafiuddin Achlil, Directorate of Reforestation and Rehabilitation
5. Harsono Bekswardoyo, Directorate of Forestry Planning
6. L.W.M. Meulenhoff, Directorate of Forestry Product
7. T. Ishikawa, First Secretary of the Embassy of Japan
8. M. Miyamoto, JICA Jakarta
9. N. M o r i , Team Leader
10. H. I n o u e , Expert
11. H. Sugiyama, Expert
12. K. Tomnaga, Liaison Officer
13. M. Parawansa, South Sulawesi Provincial Government
14. Djoko Suyatno, South Sulawesi Regional Office of Dept. of Agriculture
15. Hadi Martono, South Sulawesi Forestry Service
16. Abdul Rasyid, Staff of Project.

5. インドネシア養蚕開発計画に係る記者会見

11社の記者が出席し、調査団の調査結果の概要説明の後、アフィリル化が対応し、プロジェクトの役割とその限界、養蚕振興の方向とその方策、普及体制の整備の構想等についての説明と一問一答がなされた。参集新聞社及び主要新聞の掲載内容は以下のとおりである。

〔参集新聞社〕

November 4, 1980.

PRESS PERSONNEL.

N A M E:

NAME OF PRESS:

- |                   |   |
|-------------------|---|
| 1. M. Hatta       | Pelita  |
| 2. Sutikno        | Pelita Buana                                  |
| 3. Hendro Sukarno | Harian Angkatan Bersenjata                    |
| 4. Ade Sukarno    | Harian Merdeka                                |
| 5. Harsono        | Department of Information                     |
| 6. Rachmat Sjarif | Antara  |
| 7. Mubardjo       | Sinar Jaya                                    |
| 8. Hendro Martono | R.R.I. (Radio Republic Indonesia)             |
| 9. Ratiman        | Kompas  |
| 10. Fausy         | KNI   |
| 11. Wariso        | Public Relation Department<br>of Agriculture. |

## Japanese Team Returns after Assisting S. Sulawesi Silkworm Farms

A Japanese team under Shozo Ueda which arrived here October 22 to give technical guidance to natural silk farms in South Sulawesi is scheduled to fly back home November 6.

While in Indonesia, the team visited silk farms and industries in Bilibili, Gowa, Tajuncu and Sopeng (all in South Sulawesi) to extend technical advice on silkworm growing techniques, strawberry farming and how to combat silkworm pests.

Shozo Ueda at a press meeting here Tuesday said the silk industry now being developed with Japanese assistance under the ATA-72 cooperation project, involving Japanese financial grants, would have bright prospects for Indonesia's future economy.

The ATA-72 project now covers 28 hectares of strawberry plantations to feed natural silkworms, eight hectares in Bilibili and 20 hectares in Sopeng. Local farmers ac-

count for 4000 hectares of strawberry plantings, including 2000 hectares in Sopeng alone.

The ATA-72 project was started in 1978 by the two countries for a five year period.

Rafiudin Ahlil, a senior official of the Forestry directorate-general, said Indonesia now was producing some 30 tons of natural silk annually, comprising 23 tons from South Sulawesi and the rest by the state forestry corporation Perhutani.

Indonesia reached a production peak of 140 tons annually in 1971, which thereafter declined sharply due to a silkworm pest which started to infest plantations in 1970.

World silk production now stands at 500,000 tons annually, largely accounted for by Japan.

He hoped the ATA-72 project would succeed in boosting the silkworm industry in South Sulawesi to free the country from dependence on silkworm imports from Japan. (Antara).

KOMPAS, NOVEMBER 5, 1980.

SILK FARMERS ENTHUSIASTIC AGAIN.

In this 1980, the silk farmers are enthusiastic again to start its production. It is very delighted because for approximately seven years, since 1972, silk industry in South Sulawesi become totally apathy.

It was expressed by Ir. Rafiuddin Achlil, Chief of Sub-dit, Forestry Development, Dit. Reforestation and Rehabilitation in a press conference after a half-day discussion with the Japanese technical guidance team for sericulture project.

Some disease attacks most of the silkworm there and the local farmers are also facing difficulties to get high quality of silkworm seed so that it have to be imported from Japan.

Farmer become enthusiastic again after receiving technical guidance from Japanese experts, who are a realization of the technical cooperation between Japan and Indonesia (project ata-72).

ATA-72 project is a technical grant aid project by the Government of Japan which are being executed in South Sulawesi, the biggest silk centre in Indonesia. This is a five year grant aid project signed in Jakarta last February 1978, and could be extended if necessary.

It is reported that Japanese experts has succeed in finding and controlled a certain disease which always attack silkworm. They also start to execute the multiplication of silkworm seed for the well-being of the farmers.

...../.....

This fact wakes the farmers' enthusiasm to product again.

It can not be imitated.

Ir Rafiuddin expressed that the ata-72 project is a Japanese technical aid which only to develop silk industry in Indonesia - "they don't have any special tendency so that Indonesia will always depenable to Japan".

Silkworm rearing in Indonesia has been pioneered by the government since 1960 and the glorious years of silk industry in Indonesia is in 1971 with its total product of 140 tons/year which 130 tons is produced by South Sulawesi.

Afterwards, silk industry in Indonesia decrease/cutback year by year. In 1979/80 total production is only 23 ton. Mulberry plants/trees is only approximately 3500 ha in Soppeng, Enrekang, Gowa and etc.

Ir. Sanusi, sericulture expert, accompanied Ir. Achlil, added that production of silk fiber in the whole world is very small, only maximumly 0,2% from the whole silk fiber production for textile industry. In Japan itself, which is the exist

one of the most progressive country in silk industry, its production inclined to decrease each year, but at the other side, number of silk textile consument is increase.

It is added that until today, there isn't any technology which could imitate natural silk fiber and textile.

# KOMPPAS

RABU, 5 NOVEMBER 1980

Amanat Hatnurani Rakyat

NO. 127 TAHUN KE XVI

## Petani Sutera Bergairah Kembali

Jakarta, Kompas

Dalam tahun 1980 ini para petani atau pengrajin tenun sutera alam di daerah Sulawesi Selatan mulai bergairah untuk berproduksi kembali. Hal ini sangat menggemakan. Karena selama kurang-lebih tujuh tahun sejak 1972 lalu, industri atau kerajinan sutera alam di Sulsel mengalami kelesuan total.

Ini dikemukakan oleh Kepala Subdit Bina Hutan Direktorat Reboisasi dan Rehabilitasi Ditan Kehutanan, Ir. Rafudin Ahil, dalam jumpa-pers sesaat setelah berdiskusi selama setengah hari dengan Team Bimbingan Teknik industri persuteraan alam dari Jepang, hari Rabu.

Lesunya kerajinan tenun sutera alam di Sulsel selama ini, diakui banyak timbulnya sejenis penyakit yang banyak menyerang ulat-ulat sutera di sana. Selain itu, para petani/pengrajin setempat juga mengalami kesulitan untuk mendapatkan bibit ulat sutera bermutu tinggi, sehingga mereka harus mengimpor dari Jepang.

Tapi belakangan ini para petani/pengrajin tenun sutera di Sulsel mulai bergairah untuk berproduksi kembali. Ini berkat adanya bimbingan teknis dari ahli-ahli sutera alam Jepang. Para ahli sutera alam dari negeri Sakura ini merupakan pelaksanaan-pelaksanaan teknis dalam rangka kerjasama teknik persuteraan antara Pemerintah Indonesia dan Jepang (Proyek ATA-72).

Proyek ATA-72 tersebut, menurut Ir. Rafudin Ahil, merupakan

bantuan teknik dari Jepang dalam bentuk grant (hibah) yang dilaksanakan di daerah Sulsel yang merupakan sentra kerajinan tenun sutera alam terbesar di Indonesia. Bantuan teknik ini akan berlangsung selama lima tahun sejak ditandatangani di Jakarta akhir Februari 1978 lalu. Apabila dipandang perlu, bantuan teknik ini akan diperpanjang atau dipertegas lagi.

Di daerah Sulsel, ahli-ahli sutera alam Jepang itu khususnya berhasil menemukan dan mengendalikannya jenis penyakit tertentu yang selama ini banyak menyerang ulat-ulat sutera setempat. Selain itu, mereka dewasa ini juga mulai melaksanakan pembibitan ulat-ulat sutera sendiri untuk kepentingan para petani/pengrajin tenun sutera di daerah Sulsel.

Faktor inilah yang mengugah semangat para petani/pengrajin sutera di daerah Sulsel, sehingga kini mereka bergairah untuk berproduksi kembali.

**Tidak bisa ditiru**  
Ir. Rafudin menegaskan, proyek ATA-72 itu merupakan bantuan teknik Jepang yang semata-mata untuk memajukan industri sutera alam di Indonesia. Mereka tidak punya tujuan tertentu agar industri sutera alam di Indonesia selanjutnya selalu terikat atau bergantung kepada Jepang, katanya.

Selanjutnya ia menjelaskan, bahwa pemeliharaan ulat sutera di Indonesia dirintis oleh Pemerintah sejak tahun enam puluhan. Dan puncak kejayaan persuteraan

di Indonesia terjadi pada tahun 1971 dengan produksi benang sutera seluruhnya mencapai sekitar 140 ton setahun, di antaranya 130 ton dihasilkan dari daerah Sulsel.

Masa selanjutnya, industri sutera alam di Indonesia mengalami kemunduran terus-menerus. Pada tahun 1979/1980 lalu produksinya benang sutera dari Sulsel seluruhnya hanya sekitar 23 ton saja. Sedang tanaman murbei (makanan ulat sutera) milik rakyat setempat seluruhnya hanya sekitar 3500 hektar yang tersebar di daerah Soppeng, Enrekang, Gowa dan lain-lain.

Ir. Sanusi, seorang ahli persuteraan alam Indonesia yang mendampingi Ir. Rafudin menambahkan, total produksi serat sutera alam di seluruh dunia sangat kecil, yakni maksimum hanya 0,2 persen dari seluruh produksi serat untuk industri tekstil yang ada. Di Jepang sendiri yang merupakan negara paling maju dalam industri sutera alam, produksinya cenderung makin menurun tiap tahun, tapi sebaliknya, jumlah penggemar (konsumen) kain sutera alam di negara tersebut makin meningkat.

Serat atau kain sutera alam, menurut Ir. Sanusi, sampai sekarang tidak atau belum bisa ditiru dengan jenis teknologi manufaktur. Karena itu, harga kain sutera alam tetap mahal. Yang mampu membeli barang antik itu hanyalah kelompok masyarakat yang berpenghasilan tinggi saja, katanya. (rtm)



MERDEKA, NOVEMBER 5, 1980.

JAPANESE TEAM GIVES AID, PRODUCTION OF INDONESIAN SILK THREAD IS MUCH BEHIND.

Compare with world production of silk thread, capacity by the Indonesian factory/industries is much behind.

In 1979, world production reached 50.000 tons but Indonesia could only reach 30 tons.

According to Ir. Sanusi, sericulture expert of the Forest Research Institute in Bogor, that amount is not enough even for the people of South Sulawesi.

It is hoped that after the project at-72 in February 17, termination of

1983, production of silk will increase as it ever happened in 1971 with the capacity of 140 tons.

JICA Team which consist of five persons headed by Shozo Ueda, Director of Production Development, Ministry of Agriculture.

The purpose of the visit is to observe the development of the project and to discuss the future cooperation.

Government of Japan through JICA will do its best to transfer the technology/knowledge to Indonesian side in carrying out the sericulture project.

It is hoped that through this five years technical aid, problems such as supply of best and healthy silkworm egg, also free from all pebrine disease could be prevented without difficulty.  
any

...../.....

## Prevention of Pebrine

Rafiuddin Achlil, Chief of Forest Development explained the aforementioned matter after having a discussion with the JICA Team

It is said that the two years technical aid is successful enough, specially which concern with pebrine disease. Besides that supply of silkworm mother is almost fulfill, so that in 1981 Indonesia could cover the problem of silkworm seed.

Nowadays, Indonesia is still depenable to Japan for its supply of silkworm seed. Even the number of import seed has already been minimized, the import data showed that not more than 1.000 boxes (contents of which is approximately 30.000) is still needed for each period.

Based on the agreement, Government of Japan will support Indonesia in the following matter such as egg production, pest and disease control, study/research on suitable technology for the silkworm rearing.

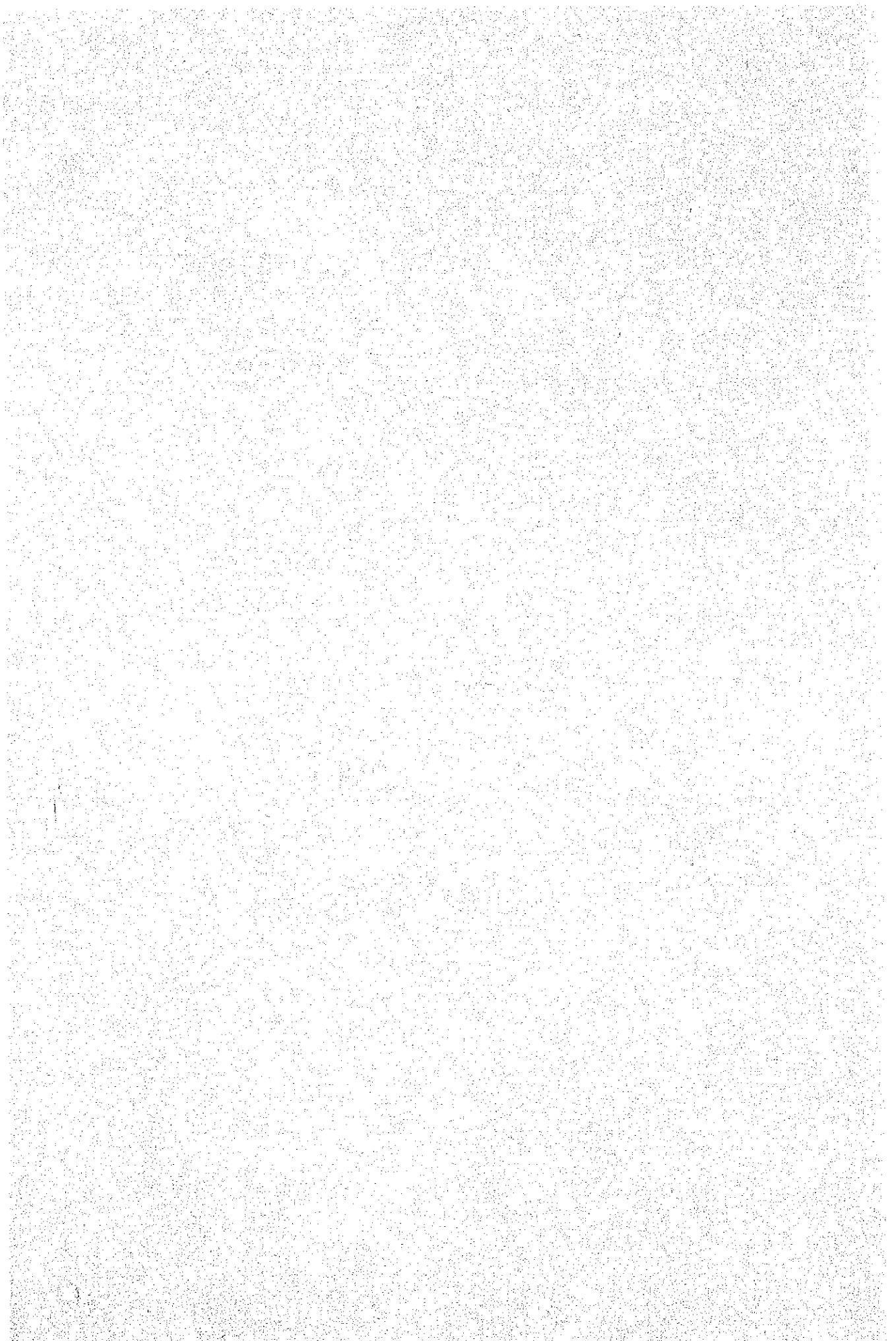
For this project, it is further explained that 8ha of mulberry trees are planted in thea area of Bili-bili, Gowa and 20 ha in Tajuncu, Soppeng. While mulberry trees own by the people reached 3.000 to 4.000 ha with the total number of 4.000 farmers.







— 参 考 资 料 —



1. 養蚕の分野における技術協力に関する日本国政府とインドネシア共和国政府との間の協定

Collection des Traités (N° 2790)

---

AGREEMENT BETWEEN THE GOVERNMENT OF  
JAPAN AND THE GOVERNMENT OF THE RE-  
PUBLIC OF INDONESIA CONCERNING TECHNI-  
CAL COOPERATION IN THE FIELD OF SERICUL-  
TURE

Signed at Jakarta, February 28, 1978

Entered into force, February 28, 1978

---

Avril 1978

Ministère des Affaires Etrangères



条約集 (分冊)

(2790)

外務省条約局

昭和五十三年四月編集

養蚕の分野における技術協力に関する日本国政府とインドネシア共和国政府との間の協定

略称—インドネシアとの養蚕の分野における技術協力協定

昭和五十三年（一九七八年）二月二十八日にジャカルタで署名  
同 年（同 年）二月二十八日に効力発生

（出所—署名本書）

◎養蚕の分野における技術協力に関する日本国政府とインドネシア共和国政府との間の協定

(略称) インドネシアとの養蚕の分野における技術協力協定

昭和五十三年 二 月 二十八日 シヤカルタで署名  
 昭和五十三年 二 月 二十八日 効力発生  
 昭和五十三年 四 月 十 日 告示  
 (外務省告示第九四号)

| 目 次   | ページ |
|---|-----|
| 前 文   | 一   |
| 第一 条 養蚕開発計画に対する協力                             | 一   |
| 第二 条 日本人専門家の派遣及び特権、免除等                        | 二   |
| 第三 条 日本側の供与する設備、機械等                           | 三   |
| 第四 条 インドネシア人職員の研修                             | 三   |
| 第五 条 日本人専門家に対する請求の責任のインドネシア政府による負担            | 四   |
| 第六 条 インドネシア側の負担で提供される職員、土地、建物、設備等             | 四   |
| 第七 条 インドネシア側の負担する経費等                          | 五   |
| 第八 条 インドネシア共和国政府の責任及び日本人専門家の任務並びに合同委員会<br>の設置 | 六   |

インドネシアとの養蚕の分野における技術協力協定

(H)

|        |                    |     |
|--------|--------------------|-----|
| 第九條    | 協議                 | 六六  |
| 第十條    | 効力発生、有効期間及び終了      | 六六  |
| 本文     |                    | 六六  |
| 付表 I   | 基本計画               | 八八  |
| 付表 II  | 日本人専門家の表           | 九九  |
| 付表 III | 日本国政府が供与する物品の表     | 一〇〇 |
| 付表 IV  | インドネシア人専門家その他の職員を表 | 一一  |
| 付表 V   | 土地及び建物の表           | 一二  |
| 付表 VI  | 合同委員会の構成           | 一四  |

前文

(訳文)

養蚕の分野における技術協力に関する日本国政府とインドネシア共和国政府との間の協定

日本国政府及びインドネシア共和国政府は、両国間の養蚕の分野における経済及び技術協力を推進することを希望して、次のとおり協定した。

第一條

養蚕開発計画に対する協力

- 1 両政府は、インドネシア共和国政府により養蚕振興地域として指定されている南スラウェシ州における養蚕開発計画（以下「計画」といふ）を相互に協力して実施する。計画は、付表 I に掲げる基本計画に定められている。ただし、この基本計画は、計画の円滑かつ効果的な実施を確保するため修正が必要とされる場合には、両政府の関係当局間の合意により修正されることがある。
- 2 計画は、第八條にいう合同委員会が毎年作成する作業計画に従つて実施される。作成された作業計画は、両政府の関係当局によつて承認される。

AGREEMENT BETWEEN THE GOVERNMENT OF JAPAN AND THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF INDONESIA CONCERNING TECHNICAL COOPERATION IN THE FIELD OF SERICULTURE

The Government of Japan and the Government of the Republic of Indonesia,  
Desiring to advance the economic and technical cooperation in the field of sericulture between the two countries,  
Have agreed as follows:

Article I

1. The two Governments will cooperate with each other in implementing a sericultural development project in South Sulawesi Province designated as a sericulture promotion area by the Government of the Republic of Indonesia (hereinafter referred to as "the Project"). The Project is specified in the Master Plan which is given in Annex I, provided that the Master Plan may be modified by agreement between the authorities concerned of the two Governments when such modification is deemed necessary for securing smooth and effective implementation of the Project.
2. The Project will be implemented in accordance with an operational work plan to be formulated annually by the Joint-Committee referred to in paragraph 2 of Article VIII. The operational work plan so formulated shall be approved by the authorities concerned of the two Governments.

第二条

日本人専門家の派遣及び特権免除等

- 1 日本国政府は、日本国の現行法令に従い、付表Iに掲げる日本人専門家（以下「日本人専門家」という）の役務を自己の負担において供与するため必要な措置をとる。
- 2 インドネシア共和国において日本人専門家及びその家族に与えられる特権、免除及び便宜は、同様の任務を遂行している第三国又は国際連合のよりの国際機関の専門家に与えられるものよりも不利でないものとし、かつ、次のものを含む。
  - (1) 計画の実施に関連して海外から送金される生活手当に対して又はそれに関連して課される所得税その他の課徴金の免除
  - (2) インドネシア共和国に国外から持ち込まれるか又は回国から持ち出されることのある身用品及び家財に関して課される輸入税、輸出税その他の課徴金の免除
  - (3) 日本人専門家がインドネシア共和国において各専門家に付き自動車一台を購入することに対して又はそのことに関連して課される輸入税、輸入販売税、販売税その他のあらゆる種類の税及び課徴金の免除
  - (4) 日本人専門家及びその家族に対する無料の現地医療役務及び便宜

Article II

1. The Government of Japan will, in accordance with the laws and regulations in force in Japan, take necessary measures to provide at its own expense the services of Japanese experts listed in Annex II (hereinafter referred to as "the Japanese Experts").
2. Privileges, exemptions and benefits to be granted to the Japanese Experts and their families in the Republic of Indonesia will be no less favourable than those granted to experts of third countries or of international organizations such as the United Nations performing similar missions, and will include the following:
  - (1) Exemption from income tax and charges of any kind imposed on or in connection with the living allowances remitted from abroad in relation with the implementation of the Project.
  - (2) Exemption from import and export duties and any other charges imposed in respect of personal and household effects which may be brought into from abroad or taken out of the Republic of Indonesia.
  - (3) Exemption from import tax, import sales tax, sales tax, and other taxes and charges of any kind imposed on or in connection with the purchase in the Republic of Indonesia by the Japanese Experts of one motor vehicle per each expert.
  - (4) Free local medical services and facilities to the Japanese Experts and their families.

第三条

日本側の供与する設備、機械等

- 1 日本国政府は、日本国の現行法令に従い、付表Iに掲げられているような計画の実施に必要な物品を自己の負担において供与するため必要な措置をとる。
- 2 1にいう物品は、荷卸しを行わず空港又は港において、c. i. f. 建てでインドネシア共和国政府の関係当局に引き渡された時に、インドネシア共和国政府の財産となる。
- 3 1にいう物品は、付表Iに掲げる日本人専門家団長と協議の後、計画の実施のためにのみ使用される。

Article III

1. The Government of Japan will, in accordance with the laws and regulations in force in Japan, take necessary measures to provide at its own expense such articles required for the implementation of the Project as are listed in Annex III.
2. The articles referred to in paragraph 1 above will become the property of the Government of the Republic of Indonesia upon being delivered c. i. f. at airports or ports of disembarkation to the authorities concerned of the Government of the Republic of Indonesia.
3. The articles referred to in paragraph 1 above will be utilized exclusively for the implementation of the Project after consultation with the Japanese Team Leader listed in Annex II.

第四条

インドネシア人職員の研修

- 1 日本国政府は、日本国の現行法令に従い、コロンボ計画技術協力計画に基づく通常の手続によつて、計画に携わるインドネシア人職員を技術訓練又は視察のために日本国に受け入れるため必要な措置をとる。
- 2 インドネシア共和国政府は、1にいうインドネシア人職員が日本国における技術訓練により得た知識及び経験が、計画の実施のために効果的に使用されることを確保するため必要な措置をとる。

Article IV

1. The Government of Japan will, in accordance with the laws and regulations in force in Japan, take necessary measures to receive Indonesian officials associated with the Project for technical training or observation tour in Japan through the normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.
2. The Government of the Republic of Indonesia will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by the Indonesian officials referred to in paragraph 1 above through technical training in Japan will be utilized effectively for the implementation of the Project.

第五条

専門家による  
インドネシア政府の  
請求に  
対する  
責任

インドネシア共和国政府は、計画に携わる日本人専門家のインドネシア共和国における職務の遂行に起因し、その遂行中に発生し、又はその他その遂行に関連する日本人専門家に対する請求が生じた場合には、その請求に関する責任を負うことを約束する。ただし、日本人専門家の故意又は重大な過失から生ずる責任については、この限りでない。

第六条

インドネシア側の  
負担で提供される  
職員、土地、建物  
設備等

1. インドネシア共和国政府は、付表Iに掲げるインドネシア人専門家その他の職員の使用を確保し、かつ、同専門家及び職員の職務を自己の負担において供与するため必要な措置をとる。
2. インドネシア共和国政府は、インドネシア共和国の現行法令に従い、自己の負担において次のものを提供するため必要な措置をとる。
  - (a) 付表Vに掲げる土地及び建物並びにそれらの附帯施設
  - (b) 計画の実施のために必要を設備、機械、車両、器具、工具、それらの予備部品及びその他の資材（第三条1に基づき日本国政府によつて供与されるものを除く）又はそれらの補充品
  - (c) 日本人専門家のための住居及びインドネシア共和国内公

用旅行のための交通の便宜

第七条

インドネシア側の  
負担する  
経費等

- インドネシア共和国政府は、次のものを負担するため必要な措置をとる。
- (a) 計画の実施のための道路、かんがい施設その他の必要とされる施設の建設又は改善に必要な経費
  - (b) 第三条1にいう物品についてインドネシア共和国において課せられることがある關稅、内國稅その他これらに類する課税金
  - (c) 第三条1にいう物品のインドネシア共和国内における輸送並びにこれらの物品の梱付け、操作及び維持に必要な経費
  - (d) 計画の実施に必要な運賃費

第八条

インドネシア共和国政府の  
責任及び

1. インドネシア共和国政府は、計画の運営及び実施について責任を負い、日本人専門家は、計画の実施のために必要な技術上の指導及び助言を与える。

Article V

The Government of the Republic of Indonesia undertakes to bear claims, if any arises, against the Japanese Experts engaged in the Project resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their official functions in the Republic of Indonesia, except for those claims arising from the willful misconduct or gross negligence of the Japanese Experts.

Article VI

1. The Government of the Republic of Indonesia will take necessary measures to ensure the recruitment of Indonesian experts and other personnel listed in Annex IV and to provide at its own expense the services of such experts and personnel.
2. The Government of the Republic of Indonesia will, in accordance with the laws and regulations in force in the Republic of Indonesia, take necessary measures to provide at its own expense:
  - (a) land and buildings as listed in Annex V as well as incidental facilities thereto;
  - (b) supply or replacement of equipment, machinery, vehicles, instruments, tools, their spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than those provided by the Government of Japan under paragraph 1 of Article III;
  - (c) housing accommodation for the Japanese

Experts and transportation facilities for their official travels within the Republic of Indonesia.

Article VII

- The Government of the Republic of Indonesia will take necessary measures to meet:
- (a) expenses necessary for the construction or improvement of roads, irrigation facilities, and other facilities necessary for the implementation of the Project;
  - (b) customs duties, internal taxes and other similar charges, if any, imposed in the Republic of Indonesia in respect of the articles referred to in paragraph 1 of Article III;
  - (c) expenses necessary for the transportation of the articles referred to in paragraph 1 of Article III within the Republic of Indonesia as well as for the installation, operation and maintenance thereof;
  - (d) running expenses necessary for the implementation of the Project.

Article VIII

1. The Government of the Republic of Indonesia will be responsible for the administration and implementation of the Project, and the Japanese Experts will provide necessary technical guidance and advice for the implementation of the Project.

日本人専  
門家の任  
務並びに  
合同委員  
会の設置

2 計画の実施を成功させるため、合同委員会が設置される。合同委員会は、定期的に会合するものとし、また、その主要任務は、計画の年間作業計画を作成すること及び特定の問題をとり扱うこととする。合同委員会の構成は、付表Ⅴに定めらる。

第九条

協 議

両政府は、この協定から又はこれに関連して生ずることがあるいかなる事項についても、相互に協議する。

第十条

効力発生  
有効期間  
及び終了

この協定は、署名の日に効力を生じ、五年の有効期間を有する。もつとも、いずれの政府も、他方の政府に対していつでもこの協定を終了させる意思を通告することができ、その場合には、この協定は、そのような通告が行われた後六箇月で終了する。

本 文

千九百七十八年二月二十八日にシヤカルタで英語により本協定を作成した。

日本国政府のために

インドネシア共和国駐在日本国特命全權大使 吉良秀通

インドネシア共和国政府のために

農業大臣 トイン・ハヂイウィジャヤ

2. There will be established a Joint-Committee for the successful implementation of the Project. It will meet regularly and its main task will be to formulate the annual operational work plan of the Project and to deal with specific problems. The composition of the Joint-Committee is specified in Annex VI.

Article IX

The two Governments will consult with each other in respect of any matter that may arise from or in connection with this Agreement.

Article X

This Agreement will come into force on the date of signature and remain in force for a period of five years. However, either Government may at any time give notice to the other Government of its intention to terminate the Agreement, in which case the Agreement will terminate six months after such notice has been given.

Done in duplicate in English at Jakarta on this day of February 28, 1978.

For the Government  
of Japan:

For the Government  
of the Republic of  
Indonesia:

(Signed)

Hidemichi Kira

Ambassador Extraordinary  
and Plenipotentiary of  
Japan to the Republic of  
Indonesia

(Signed)

Toyib Hadiwijaya

Minister of Agriculture  
and Plenipotentiary of  
the Republic of  
Indonesia

付表 I

付表 I 基本計画

基本計画

計画は、養蚕開発センター（桑園を含む）（以下「センター」という）、副センター（桑園を含む）（以下「副センター」という）及び農民グループにおいて実施される。

- (1) センターは、南スラウェシ州ゴア県に設置され、センターにおいて次の活動が行われる。
  - (a) 桑園の建設及び管理
  - (b) 桑の栽培及び病虫害防除の技術を開発するための実証試験
  - (c) 蚕の飼育及び繭虫防除の技術を開発するための実用試験
  - (d) 蚕種の製造及びその副センターへの配布
  - (e) インドネシア人技術職員 の 訓練
  - (f) 農民グループに対する養蚕技術展示計画の作成
- (2) 南スラウェシ州ソッペン県にある林業研究所の既存の支隊

が前記のセンターの副センターとして使用され、次の活動が副センターにおいて行われる。

- (a) センターで開発された養蚕技術の実証試験
  - (b) 農民段階に適應する改良養蚕技術の導入及び演示
  - (c) 蚕種及び桑のさし穂の増殖並びにそれらの農民への配布
  - (d) 技術職員及び農民の訓練
  - (e) 農民グループに対する養蚕技術の演示の指導
- (3) 副センターで開発された養蚕技術の演示は、五箇所の農民グループ（ソッペン県において二グループ並びにワジョ県、インドラジャワラ県及びエンレカン県の各県において一グループ）で行われる。農民グループは、既存のグループの中から選定される。前記農民グループの詳細は、合同委員会が定める。

付表 II

付表 II 日本人専門家 の 表

Annex I

The Master Plan of the Project

The Project will be implemented in a sericultural development centre with mulberry field (hereinafter referred to as "the Centre"), a sub-centre with mulberry field (hereinafter referred to as "the Sub-centre") and farmers' groups.

(1) The Centre will be established in Goa Regency, South Sulawesi Province, and the following activities will be conducted in the Centre:

- (a) Construction and management of mulberry field;
- (b) Trial experiments to develop techniques for moriculture and for the control of pests and diseases of mulberry;
- (c) Trial experiments to develop techniques for silkworm rearing and for the control of pests and diseases of silkworm;
- (d) Production of silkworm eggs and distribution thereof to the Sub-centre;
- (e) Training of Indonesian technical staffs;
- (f) Formulation of a programme for demonstration of sericultural techniques at the farmers' groups.

(2) The existing branch station of the

Forest Research Institute in Soppeng Regency, South Sulawesi Province will be used as the Sub-centre of the Centre mentioned above and the following activities will be conducted in the Sub-centre:

- (a) Verifying experiments of the sericultural techniques developed in the Centre;
- (b) Introduction and demonstration of the improved sericultural techniques adaptable at the farmers' level;
- (c) Multiplication of silkworm eggs and mulberry shoots for cutting and distribution thereof to farmers;
- (d) Training of technical staffs and farmers;
- (e) Guidance for the demonstration of sericultural techniques at the farmers' groups.

(3) Sericultural techniques developed at the Sub-centre will be demonstrated in five farmers' groups (two groups in Soppeng Regency, and one group each in Wajo, Sidorap, and Enrekang Regencies). The farmers' groups will be selected out of the existing groups. Further details of the above farmers' groups will be determined by the Joint-Committee.

Annex II

List of Japanese Experts

日本人  
専門家  
の表

インドネシアとの養蚕の分野における技術協力協定

| 種別             | 分野   | 名 |
|----------------|------|---|
| (1) 専門家団長      |      |   |
| (2) 専門家 (長期派遣) | 桑栽培  | 名 |
|                | 繭製造  | 名 |
|                | 蚕飼育  | 名 |
|                | 病虫防除 | 名 |
| (3) 連絡官        |      |   |

注 前記の分野及び他の分野における短期派遣の専門家が、インドネシア政府と協議の上、更に、必要に応じて追加派遣されることもある。

付表 II

付表 II 日本国政府が供与する物品の表

日本国政府  
が供与  
する物品  
の表

|                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| (1) 蚕飼育及び繭製造用の設備、機械、器具、工具及びそれらの予備部品 | (1) Equipment, machinery, instruments, tools and their spare parts for rearing silkworm and producing silkworm eggs             |
| (2) 実験室作業用の設備、機械、器具、工具及びそれらの予備部品    | (2) Equipment, machinery, instruments, tools and their spare parts for laboratory works   |
| (3) 養蚕用の建設及び農業機械、器具並びにそれらの予備部品      | (3) Construction and agricultural machinery, implements and their spare parts for mulberry field                                |
| (4) 肥料、化学薬品その他の消耗物資                 | (4) Fertilizers, chemicals and other consumable items   |
| (5) 車両                              | (5) Vehicles  |
| (6) 視聴覚教材を含む教材                      | (6) Teaching materials including audio-visual aids  |
| (7) 両政府の関係当局の相互の合意によるその他の必要な設備及び資材  | (7) Other necessary equipment and materials to be mutually agreed upon between the authorities concerned of the two Governments |

付表 IV

付表 IV インドネシア人専門家その他の職員の名

インドネ  
シア人専  
門家その  
他の職員  
の表

| 種別            | センター    |                  | 副センター   |                  |
|---------------|---------|------------------|---------|------------------|
|               | 専門家技術職員 |                  | 専門家技術職員 |                  |
|               | experts | technical staffs | experts | technical staffs |
| (1) 理事長       |         |                  |         |                  |
| (2) 専門家及び技術職員 |         |                  |         |                  |
| 桑栽培           | 三       | 六                | 一       | 五                |
| 繭製造           |         |                  |         |                  |
| 蚕飼育           | 二       | 二                |         | 五                |
| 繭製造           | 二       | 二                |         | 三                |
| 微粒子病検査        | 二       | 二                |         | 二                |
| 蚕飼育           | 三       | 六                | 一       | 二                |

インドネシアとの養蚕の分野における技術協力協定

I C

| Category                           | Field                         |   |
|------------------------------------|-------------------------------|---|
| (1) Team Leader                    |                               |   |
| (2) Experts (long-term assignment) | Moriculture                   | 1 |
|                                    | Egg production                | 1 |
|                                    | Silkworm rearing              | 1 |
|                                    | Control of pests and diseases | 1 |
| (3) Liaison-officer                |                               |   |

Note: Additional experts on short-term assignment in the fields mentioned above as well as in other fields may also be dispatched in consultation with the Government of Indonesia, as necessity arises.

Annex III

List of the articles to be provided by the Government of Japan

|   |
|---|
| (1) Equipment, machinery, instruments, tools and their spare parts for rearing silkworm and producing silkworm eggs             |
| (2) Equipment, machinery, instruments, tools and their spare parts for laboratory works   |
| (3) Construction and agricultural machinery, implements and their spare parts for mulberry field                                |
| (4) Fertilizers, chemicals and other consumable items   |
| (5) Vehicles  |
| (6) Teaching materials including audio-visual aids  |
| (7) Other necessary equipment and materials to be mutually agreed upon between the authorities concerned of the two Governments |

Annex IV

List of Indonesian Experts and Other Personnel

|  | the Centre |                  | the Sub-centre |                  |
|--|------------|------------------|----------------|------------------|
|  | experts    | technical staffs | experts        | technical staffs |
| (1) Project Manager                                  |            |                  |                |                  |
| (2) Field and number of experts and technical staffs |            |                  |                |                  |
| Moriculture  | 3          | 6                | 1              | 5                |
| Production of silkworm eggs                          |            |                  |                |                  |
| Rearing  | 2          | 2                |                | 5                |
| Egg production                                       | 2          | 2                | 1              | 3                |
| Pebrine inspection                                   | 2          | 2                |                | 2                |



付表 V  
土地及び  
建物の表

|       |   |    |   |   |
|-------|---|----|---|---|
| 養蚕管理除 | 二 | 二  |   |   |
| 計     | 四 | 四〇 | 三 | 七 |

(3) 事務員及び業務員  
(4) 労働者

注 付表 II の種別 (2) にいう日本人専門家各一名に対し少なくとも七名のインドネシア人専門家が提供される。

付表 V 土地及び建物の表

(1) センター用の土地及び建物

(a) 建物及び施設用の土地  
(b) 桑園 八ヘクタール  
(c) 本館  
(d) 繭検査室  
(e) 飼育法開発用の飼育室  
(f) 人工ふ化室  
(g) 種製造用の飼育室 (第一室及び第二室)

(h) 研究室 (雄蛾冷蔵庫を含む)  
(i) 病理飼育室  
(j) 微粒子病検査室  
(k) 蚕種冷蔵庫  
(l) 桑園管理舎  
(m) 堆肥庫  
(n) 農業機械及び設備用の倉庫  
(o) 化学薬品庫  
(p) 車庫  
(q) 宿舎  
(r) その他の必要な土地、建物及び施設

(2) 副センター用の土地及び建物

(a) 建物及び施設用の土地  
(b) 桑園 一九・五ヘクタール  
(c) 稚蚕用の飼育室  
(d) 壮蚕用の飼育室 (第一室及び第二室)  
(e) 壮蚕用の飼育研究室  
(f) 種製造用の飼育室 (第一室及び第二室)  
(g) 種製造用の飼育研究室  
(h) 微粒子病検査室  
(i) 蚕種冷蔵庫

|                               |    |    |   |    |
|-------------------------------|----|----|---|----|
| Silkworm rearing              | 3  | 6  | 1 | 2  |
| Control of pests and diseases | 2  | 2  |   |    |
| Total                         | 14 | 25 | 3 | 17 |

(3) Clerical and service employees  
(4) Labourers

Note: At least one Indonesian counterpart official will be provided for each Japanese expert mentioned in Category (2) of Annex II.

Annex V  
List of Land and Buildings

- (1) Land and buildings for the Centre
- (a) Land for buildings and facilities  
(b) Mulberry field 8 ha  
(c) Main building  
(d) Cocoon testing room  
(e) Rearing room for developing rearing methods  
(f) Artificial hatching room  
(g) Rearing rooms (No. 1 and No.2) for egg production
- (h) Research room (including refrigerator for male moth)  
(i) Pathological rearing room  
(j) Pebrine inspection room  
(k) Silkworm egg refrigerator  
(l) Management house of mulberry field  
(m) Shed for compost  
(n) Store-house for agricultural machinery and equipment  
(o) Chemicals storage  
(p) Garage  
(q) Living quarters  
(r) Other necessary land, buildings and facilities
- (2) Land and buildings for the Sub-centre
- (a) Land for buildings and facilities  
(b) Mulberry field 19.5 ha  
(c) Rearing room for young silkworm  
(d) Rearing rooms (No. 1 and No.2) for grown silkworm  
(e) Research room for rearing grown silkworm  
(f) Rearing rooms (No. 1 and No.2) for egg production  
(g) Research room for rearing for egg production  
(h) Pebrine inspection room  
(i) Silkworm egg refrigerator

付表 V

合同委員  
会の構成

- (j) 飼育法開発用の飼育室
- (k) 人工ふ化室
- (l) 化学薬品庫
- 四 その他の必要な土地、建物及び施設

- (j) Rearing room for developing rearing methods
- (k) Artificial hatching room
- (l) Chemicals storage
- (m) Other necessary land, buildings and facilities

Annex VI

Composition of the Joint-Committee

付表 V 合同委員会の構成

- (1) インドネシア側
  - (a) 農業省林業総局植林保全局長 (委員長)
  - (b) 理事長
  - (c) 農業省林業研究所代表
  - (d) 農業省林産局代表
  - (e) 農業省林業総局書記官
  - (f) 農業省林業計画局代表
  - (g) 農業省計画局代表
  - (h) 南スラウェシ州政府代表

- (1) Indonesian side:
  - (a) Director of the Directorate of Reforestation and Rehabilitation, Directorate-General of Forestry, Department of Agriculture (chairman)
  - (b) Project Manager
  - (c) Representative of the Forest Research Institute, Department of Agriculture
  - (d) Representative of the Directorate of Forestry Production, Department of Agriculture
  - (e) Secretary of the Directorate-General of Forestry, Department of Agriculture
  - (f) Representative of the Directorate of Forestry Programming, Department of Agriculture
  - (g) Representative of the Bureau of Planning, Department of Agriculture
  - (h) Representative of the South Sulawesi Provincial Government

- (2) 日本側
  - (a) 専門家団長
  - (b) 専門家団長によつて指名される専門家
  - (c) 連絡官
  - (d) 国際協力事業団の代表

- (2) Japanese side:
  - (a) Team Leader
  - (b) Experts to be appointed by the Leader
  - (c) Liaison-officer
  - (d) Representative of the Japan International Cooperation Agency

注 日本国大使館及び在ウジヤン・パンダング日本国総領事館の館員は、合同委員会の会合にオブザーバーとして出席することとができる。

Note: Officials of the Embassy of Japan and the Consulate-General of Japan in Ujung Pandang may attend the meeting of the Joint-Committee as observer.

(参考)

この協定は、インドネシア共和国政府により養蚕振興地域として指定されている南スラウェシ州における養蚕開発計画のための技術協力の実施に関し日本国政府が、専門家及び設備、資材等を供与することによつて協力することを内容とするものである。

## 2. 討議議事録 (RECORD OF DISCUSSION)

ON THE RECORD OF DISCUSSION BETWEEN THE JAPANESE SURVEY TEAM AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE DIRECTORATE GENERAL OF FORESTRY, DEPARTMENT OF AGRICULTURE OF THE REPUBLIC OF INDONESIA CONCERNING THE TECHNICAL COOPERATION FOR THE INDOONESIAN SERICULTURAL DEVELOPMENT PROJECT.

In pursuance of the preliminary survey for sericultural development in Indonesia, the dispatch of three experts and the implementation planning survey, the Japanese Survey Team for Sericultural Development in Indonesia, organized by the Japan International Cooperation Agency and headed by Dr. Kazuo HAZAMA, Director of Research Planning Division, National Sericultural Experiment Station, Ministry of Agriculture and Forestry, Government of Japan visited Indonesia from March 24, to March 31, 1976, in order to work out the details of the concrete technical cooperation for the Sericultural Development Project between Japan and Indonesia.

During their stay in Indonesia, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Indonesian authorities concerned regarding the desirable measures to be taken by both countries to develop the sericultural industry in Indonesia.

As the result of the discussions, the Team and the Indonesian authorities concerned agreed to recommend to their respective Government the matters referred to in the attached Record of Discussions concerning the technical cooperation for the Sericultural Development Project in Indonesia.

Jakarta, March 30, 1976

Kazuo Hazama

Dr. Kazuo HAZAMA  
Head of the Japanese  
Survey Team for Sericultural  
Development in Indonesia.

S. S. S.

Ir. SONDJONO SOBRIJO  
Secretary of the Directorate  
General of Forestry

THE RECORD OF DISCUSSION BETWEEN THE JAPANESE SURVEY TEAM AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE DIRECTORATE GENERAL OF FORESTRY, DEPARTMENT OF AGRICULTURE OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF INDONESIA CONCERNING THE TECHNICAL COOPERATION FOR THE INDONESIAN SERICULTURAL DEVELOPMENT PROJECT.

1 The two countries will cooperate with each other in implementing the Sericultural Development Cooperation Project (hereinafter referred to as " the Project" ) specified below for the purpose of contributing to the development of sericultural industry in Indonesia, centering South Sulawesi Province noted as a sericultural promoting area.

(1) Contents of the Project

- (i) Establishing a Sericultural Center at Goa Regency of South Sulawesi Province, establishment of modern sericultural techniques, production and distribution of parent eggs of F1 Hybrid and shoots for cutting, and training of Indonesian technical staffs and leaders will be pursued.
- (ii) Reorganizing and substantiating as the Sub-Center the existing Branch Station of Forest Research Institute in Soppeng Regency, establishment and Dissemination of locally accommodated techniques, production and distribution of silkworm eggs and sapling of mulberry, and training of sericultural leaders engaged in Pilot Units will be pursued.
- (iii) Selecting two Units in Soppeng Regency and one Unit in Wajo, Sidrap, and Parekang respectively, as Pilot Units out of the existing Units, Demonstration of techniques which will be established at the Sub-Center will be pursued.

Until the Sericultural Center and its Sub-Center are established, the following items will be conducted :

- (i) preparation for foundation of the Sericultural Center and its Sub-Center;
  - (ii) preparation for establishment of standard sericultural techniques;
  - (iii) preparation for production and distribution of parent eggs of F1 Hybrid and shoots for cutting;
  - (iv) training of Indonesian technical staffs.
- (2) The Project will be implemented in accordance with an operational work plan to be formulated annually by the Joint-Committee referred to in paragraf 8 (2).

- 2 (1) In accordance with laws and regulations in force in Japan, the Japanese authorities concerned will take necessary measures to provide at their own expense the services of the Japanese experts as listed in Annex I through the normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.
- (2) The Japanese experts mentioned above and their families will be granted, in the Republic of Indonesia, privileges, exemptions and benefits as listed in Annex II and other privileges, granted to Colombo Plan Experts.
- 3 (1) In accordance with laws and regulations in force in Japan, the Japanese authorities concerned will take necessary measures to provide at their own expense such equipment, machinery, vehicles, instruments, tools, their spare parts, fertilizers, pesticides and other materials as listed in Annex III, required for the implementation of the Project through the normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.
- (2) The articles referred to in 3 (1) above will become the property of the Government of Republic of Indonesia upon being delivered c.i.f. at the port of disembarkation to the Indonesian authorities concerned.
- (3) The articles referred to in 3 (1) will be utilized exclusively for the implementation of the Project.
- 4 (1) In accordance with laws and regulations in force in Japan, the Japanese authorities concerned will take necessary measures to receive Indonesian technical staffs and other personnel associated with the Project for technical training or observation tour in Japan through the normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.
- (2) The Indonesian authorities concerned will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by the Indonesian staffs mentioned above through the technical training in Japan will be utilized effectively for the implementation of the Project.
- 5 The Indonesian authorities concerned will take necessary measures to provide at their own expense :
  - (1) the services of Indonesian technical staffs and other personnel as listed in Annex IV;
  - (2) land and buildings as listed in Annex V as well as incidental facilities required therefor;

- (3) supply or replacement of equipment, machinery, vehicles, tools, their spare parts and other materials necessary for the implementation of the Project other than those provided by the Japanese authorities concerned.
  - (4) housing facilities for the Japanese experts and Indonesian counterparts officials; according to Indonesian standard for Government officials.
  - (5) appropriate offices at Ujungpandang and Soppeng during the preparation time of establishing the Sericultural Center and its Sub-Center.
- 6 The Indonesian authorities concerned will take necessary measures to meet :
- (1) customs duties, internal taxes and other similar charges, if any, imposed in the Republic of Indonesia in respect of the articles referred to in 3; according with the law and regulations in force in Indonesia.
  - (2) expenses necessary for the transportation of the articles referred to in 3 within the Republic of Indonesia as well as for installation, operation and maintenance therefor;
  - (3) all running expenses necessary for the implementation of the Project;
  - (4) expenses for the transportation facilities and travel in Indonesian for the Japanese experts on duty.
- 7 The Indonesian authorities concerned undertake to bear claims, if any arises, against the Japanese experts engaged in the Project resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their official functions in the Republic of Indonesia, except for those claims arising from willful misconduct or gross negligence of the Japanese experts.
- 8 (1) The Director General of Forestry, is in charge of the project and he shall be entitled to delegate on his own responsibility partly or entirely his duties to the Secretary of the Directorate, General of Forestry. The Japanese experts will provide necessary technical guidance and advice for the implementation of the Project.
- (2) For the successful implementation of the Project, a Joint Committee will be established as specified in Annex VI. The Committee will meet regularly.

- 9 To lead the Project successfully, there will be consultation, if necessary, between the Indonesian and Japanese authorities concerned.
10. The period of the technical cooperation mentioned in this Record of Discussions will be eighteen months starting from the date of its signing. There will be mutual consultation between the both Governments within this period concerning the matter of conclusion of the bilateral agreement for the technical cooperation thereafter. This Record of Discussions will <sup>be</sup> served as a basis for the implementation of the Project and the Agreement.

## Annex I

## List of the Japanese Experts

| Category        | Field                          | Number |
|-----------------|--------------------------------|--------|
| (1) Team Leader |                                | 1      |
| (2) Experts     |                                |        |
|                 | Horticulture                   | 1      |
|                 | Egg Production                 | 1      |
|                 | Silkworm Rearing               | 2      |
|                 | Control of Disease and<br>Pest | 1      |

Note ; Short term experts in the field mentioned above as well as other fields will be able to be dispatched when necessity arises agreed upon by the joint committee.



- (1) Exemption from income tax and charges of any kind imposed on or in connection with the living allowances remitted from abroad.
- (2) Exemption from import and export duties and other charges imposed in respect of personal and household effects which may be brought into the Republic of Indonesia from abroad.
- (3) Free local medical services and facilities to the Japanese experts and their families in accordance with the regulation applied to Indonesian Government officials.

Annex III            Articles to be Provided by the Government of Japan

- (1) Machinery, equipment, instruments, tools, spare parts, disinfectants and other materials for silkworm rearing and silkworm eggs production.
- (2) Machinery, equipment, instruments, tools, spare parts and other materials for laboratory.
- (3) Machinery, instruments, tools, spare parts, fertilisers, chemicals and other materials for mulberry field.
- (4) Teaching materials including audio-visual aids and reference books.
- (5) Water cleaning and pumping equipments.
- (6) Vehicles.
- (7) Other necessary equipment and materials to be mutually agreed upon.

Note : The detail list of the above mentioned articles will be made by the authorities concerned of the Project.

Annex V List of Land, Buildings and Facilities to be  
Provided by the Government of the Republic of  
Indonesia

1. Center

(1) Buildings and Facilities

1. Main Building
2. House of Silkworm Rearing Method
3. House of Artificial Hatching Treatment
4. Rearing House for Egg Production
5. House of Egg Production
6. Research Room including Refrigerator Facilities  
for male moth
7. Pathological Rearing House
8. Febrine Inspection House
9. House of Silkworm Egg Refrigerator
10. Tools Washing Pond
11. Garage
12. Mulberry Field Management House
13. House of Compost
14. Ware House for Agricultural Machines and Tools
15. Guest House
16. Other necessary Facilities

(2) Land

Mulberry Field ( 8 Ha )  
Land for the above Buildings and Facilities  
( 1 Ha )

**2. Sub-Center**

**(1) New establishment**

- Rearing House of Grown Silkworm
- Rearing House for Egg Production
- Pebrine Inspection House
- Silkworm Egg Refrigerator House
- Mulberry Field ( 19.5 Ha )
- Other necessary facilities

**(2) Alteration of the use of existing buildings**

- Pebrine Inspection House ---- Stock house of  
Chemicals etc.
- Stock House ----- House of Artificial  
Hatching Treatment
- Rearing House ----- House of Young Silkworm  
Rearing
- Refrigerator  
Incubation Room ----- House of Silkworm Rearing  
Method

**Note:** Alteration will include improvement of the buildings  
and the facilities, if necessary.

3. 延長討議事録 ( EXTENSION NOTE FOR RECORD OF DISCUSSION )

EXTENSION NOTE FOR RECORD OF DISCUSSION  
CONCERNING THE TECHNICAL COOPERATION  
FOR THE SERICULTURAL DEVELOPMENT PROJECT


---

Mr. Sakae Tsurumi, Resident Representative of the Japan International Cooperation Agency in Indonesia, had a series of talks with the authorities concerned of the Government of the Republic of Indonesia on the extension of the period of technical cooperation based on the Record of Discussions concerning the Indonesian Sericultural Development Project signed at Jakarta on March 30, 1976.

As a result of the talks, both sides agreed to recommend to their respective Governments the following understanding reached between them.

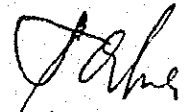
The period of the technical cooperation mentioned in paragraph 10 of the afore-said Record of Discussion signed at Jakarta on March 30, 1976, will be extended until February 28, 1978 with the understanding that the extended period of technical cooperation based on the present Record of Discussion will be terminated, even before February 28, 1978, as soon as an agreement on technical cooperation for the Indonesian Sericultural Development Project is concluded between the Government of Japan and the Government of the Republic of Indonesia.

Jakarta, December 29, 1977



SAKAE TSURUMI

Resident Representative of  
Japan International Cooperation  
Agency in Indonesia



IR. SOEDJONO SOERJO

Secretary of the Directorate  
General of Forestry

4. 養蚕センター桑園の灌漑施設の建設のための贈与に関する  
日本国政府とインドネシア共和国政府との間の交換公文

養蚕センター桑園の灌漑施設の建設のための贈与に関する  
日本国政府とインドネシア共和国政府との間の書簡の  
交換に関する閣議決定

養蚕センター桑園の灌漑施設の建設のための贈与に関する書  
簡を別紙の案によりインドネシア共和国政府との間に交換する  
こととする。

5. 2. 13 閣議決定

(別紙)

養蚕センター桑園の灌漑施設の建設のための贈与に関する  
日本国政府とインドネシア共和国政府との間の交換公  
文

(日本側書簡)

(訳文)

書簡をもつて啓上いたします。本使は、南スラウェシ州に設  
立される予定の養蚕センター及びその副センターに関しイン  
ドネシア共和国政府が日本国政府に対して行つた援助要請にこ  
たえて日本国政府の代表者とインドネシア共和国政府の代表者  
との間で最近行われた討議に言及するとともに、次の取極を提  
案する光榮を有します。

1. 日本国政府は、インドネシア共和国政府が養蚕センター及びその副センターの桑園のための灌溉施設（以下「センターの施設」という。）を建設することに協力するため、日本国との関係法令に従い、インドネシア共和国政府に対し、両政府との関係当局間の合意によつて延長されない限り、この取極の効力発生の日から千九百七十八年三月三十一日までの期間に一億円（一〇〇、〇〇〇、〇〇〇円）を限度とする額の贈与を行う。
2. 贈与は、インドネシア共和国政府により次に掲げる生産物及び役務を購入するために使用される。
  - (a) センターの施設の建設のために必要な日本国の生産物
  - (b) (a)にいう生産物のインドネシア共和国の港までの輸送のために必要な役務
3. インドネシア共和国政府又はその指定する当局は、2にいう生産物及び役務を購入するため日本国民又は日本国民の支配する日本国の法人と円貨建ての契約を締結する。この契約は、贈与の対象として適格であることが日本国政府により認められなければならない。
4. 日本国政府は、認証された契約に基づいてインドネシア共和国政府又はその指定する当局が負う債務の弁済に充てるための資金を、インドネシア共和国政府又はその指定する当局によつて指定される日本国の外国為替公認銀行（以下「銀行」という。）に開設されるインドネシア共和国政府名義の勘定に日本円で払い込むことにより、贈与を実施する。
5. 4にいう払込みは、インドネシア共和国政府又はその指定する当局が発行する支払授權書に基づいて銀行が支払請求書

を日本国政府に提出した時に行われる。

6 4にいう勘定の目的は、日本国政府が払い込む日本円を受領すること及び日本国民又は日本国民の支配する日本国の法人に対する支払を行うことに限られる。

7 (1) インドネシア共和国政府は、センターの施設の建設について責任を負い、かつ、次のことのために必要な措置をとる。

(a) センターの施設の建設のために必要なすべての経費贈与によつて負担されるものを除く。を負担すること。

(b) 日本国民及び日本国民の支配する日本国の法人につき、贈与に基づく生産物及び役務の供与に関してインドネシア共和国において課される関税、内国税その他の財政課徴金を免除すること。

(c) 贈与によつて供与される生産物のインドネシア共和国内の陸揚港における陸揚げ及び通関並びに国内輸送が速やかに行われることを確保すること。

(d) 贈与によつて供与される生産物がセンターの施設の建設のために適正かつ効果的に維持され及び使用されることを確保すること。

(e) 贈与の実施に関連して生ずる銀行手数料を負担すること。

(2) 贈与によつて供与される生産物は、インドネシア共和国から再輸出されてはならない。

8 4にいう勘定への貸記及び借記に関する手続細目は、銀行とインドネシア共和国政府又はその指定する当局との間の協議により合意される。



9 両政府は、この取極から又はこれに関連して生ずるいかなる問題についても相互に協議する。

本使は、更に、この書簡及びインドネシア共和国政府に代わつて前記の取極を確認される貴官の返簡が両政府間の合意を構成するものとみなし、その合意が貴官の返簡の日付の日に効力を生ずることを提案する光榮を有します。

本使は、以上を申し進めるに際し、ここに貴官に向かつて敬意を表します。

#### (インドネシア側書簡)

(訳文)

書簡をもつて啓上いたします。本官は、本日付けの閣下の次の書簡を受領したことを確認する光榮を有します。

#### (日本側書簡)

本官は、更に、インドネシア共和国政府に代わつて前記の取極を確認するとともに、閣下の書簡及びこの返簡が両政府間の合意を構成するものとみなし、その合意がこの返簡の日付の日に効力を生ずることに同意する光榮を有します。

本官は、以上を申し進めるに際し、ここに閣下に向かつて敬意を表します。

養蚕センター桑園の灌漑施設の建設のための贈与に関する日本国政府とインドネシア共和国政府との間の交換公文の要綱

- 一 日本国政府は、インドネシア政府が南スラウェシ州に設立される予定の養蚕センター及びその副センターの桑園のための灌漑施設（以下「センターの施設」という。）を建設することに協力するため、日本国の関係法令に従い、インドネシア政府に対し、千九百七十八年三月三十一日までの期間に、一億円を限度とする額の贈与を行う。（1項）
- 二 贈与は、インドネシア政府がセンターの施設の建設に必要な生産物及びその輸送に必要な役務を購入するために使用される（2項）
- 三 贈与は、この取極の規定に定められた手続に従って供与される。（3項から6項、8項）
- 四 インドネシア政府は、贈与分を除く経費の負担、贈与に基づき生産物等に関する関税等の免除等に必要な措置をとる。（7項）
- 五 両政府は、この取極に関連する問題について協議する。（9項）

養蚕センター桑園の灌漑<sup>かんがい</sup>施設の建設のための贈与に関する日本国政府とインドネシア共和国政府との間の書簡の交換に関する説明資料

一 インドネシア政府は、同国における養蚕の振興に努めており、我が国の技術協力の下に進めている養蚕開発技術の確立及び普及のため、南スラウェシ州に養蚕センター及びその副センターを設立することとし、我が国政府に対しこれらセンターの桑園のための灌漑<sup>かんがい</sup>施設の建設につき、無償援助の要請を行つた。

二 我が方としては、この要請にこたえることは、我が国とインドネシアとの友好協力関係を増進するとともに、同国の養蚕の振興に寄与するものであると認め、同国政府との間で本

件援助の実施に関する取極につき交渉を行つてきたところ、この程一億円を限度とする額の贈与を行うことで合意をみるに至つたので、近くジャカルタにおいて両政府の代表者の間でこのための書簡の交換を行うことといたしたい。署名者は、我が方は吉良在インドネシア大使を先方はスジャルオ農業省林業総局長を予定している。

三 本件援助に必要な資金は、昭和五十一年度予算より五十二年度に繰越された経済開発等援助費から支出される。

(Japanese Note)

(a) products of Japan necessary for the construction of the Facilities of the Centers; and

(b) services necessary for the transportation of the products referred to in sub-paragraph (a) above to ports in the Republic of Indonesia.

3. The Government of the Republic of Indonesia or its designated authority will enter into contracts in Japanese yen with Japanese nationals or Japanese juridical persons controlled by Japanese nationals for the purchase of the products and services referred to in paragraph 2. Such contracts shall be verified by the Government of Japan to be eligible for the grant.

4. The Government of Japan will execute the grant by making payments in Japanese yen to cover the obligations incurred by the Government of the Republic of Indonesia or its designated authority under the verified contracts to an account to be opened in the name of the Government of the Republic of Indonesia in an authorized foreign exchange bank of Japan designated by the Government of the Republic of Indonesia or its designated authority (hereinafter referred to as "the Bank").

5. The payments referred to in paragraph 4 will be made when payment requests are presented by the Bank to the Government of Japan under an authorization to pay issued by the Government of the Republic of Indonesia or its designated authority.

Sir,

I have the honour to refer to the recent discussions held between the representatives of the Government of Japan and the Government of the Republic of Indonesia in response to the aid request made by the Government of the Republic of Indonesia to the Government of Japan concerning the Sericultural Center and its sub-centers to be established in South Sulawesi Province, and to propose the following arrangements:

1. For the purpose of cooperating with the Government of the Republic of Indonesia in constructing the irrigation facilities for mulberry fields of the Sericultural Center and its sub-centers (hereinafter referred to as "the Facilities of the Centers"), the Government of Japan will extend to the Government of the Republic of Indonesia, in accordance with the relevant laws and regulations of Japan, a grant up to one hundred million yen (¥100,000,000), which will be made available during the period between the date of coming into force of the present arrangements and March 31, 1978, unless the period is extended by mutual agreement between the authorities concerned of the two Governments.

2. The grant will be used by the Government of the Republic of Indonesia for the purchase of products and services listed below:

(e) to bear banking charges or fees arising in connection with the execution of the grant.

(2) The products provided by the grant shall not be re-exported from the Republic of Indonesia.

8. The procedural details concerning the credit to and debit from the account referred to in paragraph 4 will be agreed upon through consultation between the Bank and the Government of the Republic of Indonesia or its designated authority.

9. The two Governments will consult with each other in respect of any matter that may arise from or in connection with the present arrangements.

I have further the honour to propose that the present Note and your Note in reply confirming on behalf of the Government of the Republic of Indonesia the foregoing arrangements shall be regarded as constituting an agreement between the two Governments, which will enter into force on the date of your reply.

I avail myself of this opportunity to extend to you the assurance of my high consideration.

6. The sole purpose of the account referred to in paragraph 4 is to receive the payments in Japanese yen by the Government of Japan and to pay to Japanese nationals or Japanese juridical persons controlled by Japanese nationals.

7. (1) The Government of the Republic of Indonesia will assume the responsibility for the construction of the Facilities of the Centers and take necessary measures:

(a) to bear all the expenses, other than those to be borne by the grant, necessary for the construction of the Facilities of the Centers;

(b) to exempt Japanese nationals and Japanese juridical persons controlled by Japanese nationals from customs duties, internal taxes and other fiscal levies, which may be imposed in the Republic of Indonesia with respect to the supply of the products and services under the grant;

(c) to ensure prompt unloading and customs clearance at ports of disembarkation in the Republic of Indonesia and internal transportation of the products provided by the grant;

(d) to ensure that the products provided by the grant be maintained and used properly and effectively for the construction of the Facilities of the Centers; and

(Indonesian Note)

Excellency,

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's Note of today's date which reads as follows:

"(Japanese Note)"

I have further the honour to confirm on behalf of the Government of the Republic of Indonesia the foregoing arrangements and to agree that Your Excellency's Note and this Note shall be regarded as constituting an agreement between the two Governments, which will enter into force on the date of this reply.

I avail myself of this opportunity to extend to Your Excellency the assurance of my highest consideration.



1-2) 鋼管・鋼板・鋼線棒等鋼材

表 429- (2)

| 品名 | 工種 | 種 | 種 | 材料名       | 規格      | 材                | 単位 | 数量   | 用途    | 備 | 注                 |
|----|----|---|---|-----------|---------|------------------|----|------|-------|---|-------------------|
|    |    |   |   | フランジ      | 鋼管(CIP) | φ100×5.00        | 枚  | 1    | 80    |   |                   |
|    |    |   |   | "         | 片管(1")  | φ100×5.44        | 枚  | 2    | "     |   |                   |
|    |    |   |   | "         | 曲管(1")  | φ100×9.0°        | 枚  | 1    | "     |   |                   |
|    |    |   |   | "         | 曲管(1")  | φ80×9.0°         | 枚  | 2    | "     |   |                   |
|    |    |   |   | "         | 曲管(1")  | φ65×9.0°         | 枚  | 2    | "     |   |                   |
|    |    |   |   | 橋水管       | 鋼鉄管     | φ80%             | m  | 20   | 分     |   |                   |
|    |    |   |   | 材料曲管(CIP) | 鋼管      | φ80×9.0°         | 枚  | 2    | "     |   |                   |
|    |    |   |   | "         | フランジ    | φ80              | 枚  | 2    | "     |   |                   |
|    |    |   |   | 2. 送水配管   | 送水管     | A型 鋼管 φ100×4.0%  | m  | 1420 | 24~87 |   |                   |
|    |    |   |   | "         | 送水管     | A型 鋼管 φ100×4.0°  | 枚  | 3    | "     |   |                   |
|    |    |   |   | "         | "       | φ100×4.0°        | 枚  | 2    | "     |   |                   |
|    |    |   |   | "         | "       | φ100×2.2%        | 枚  | 17   | "     |   |                   |
|    |    |   |   | "         | "       | φ100×1.1%        | 枚  | 22   | "     |   |                   |
|    |    |   |   | 継手        | 押輪      | φ100             | 組  | 408  |       |   |                   |
|    |    |   |   | "         | 鋼輪      | φ100             | 枚  | 408  |       |   |                   |
|    |    |   |   | "         | ボルト     | M20×90           | 枚  | 1620 |       |   |                   |
|    |    |   |   | 割木舟       | 鋼管      | φ100%            | 枚  | 3    | 91    |   |                   |
|    |    |   |   | "         | "       | JIS-B-2022       | 枚  | 6    | "     |   |                   |
|    |    |   |   | フランジ      | フランジ    | φ100%            | 枚  | 6    | "     |   |                   |
|    |    |   |   | 単II型継手    | 鋼管      | JIS-B-2062       | 枚  | 20   | "     |   |                   |
|    |    |   |   | 分岐サドル     | 鋼管      | JIS-A-5720       | 枚  | 20   | "     |   |                   |
|    |    |   |   | 定気用立上り管   | 鋼管      | JIS-G-2474       | 本  | 1    | "     |   | 定気用立上り管(加工切斷必要)   |
|    |    |   |   | マンホール     | マンホール   | φ600             | 枚  | 6    | "     |   |                   |
|    |    |   |   | マンホール蓋    | マンホール蓋  | φ600             | 枚  | 6    | "     |   |                   |
|    |    |   |   | 水管橋       | 圧入鋼管    | 径φ100% 定気用       | m  | 77   | 41~41 |   |                   |
|    |    |   |   | "         | 鋼板      | t=8.1%           | 枚  | 128  | "     |   |                   |
|    |    |   |   | "         | 鋼管      | φ100%            | 組  | 10   | "     |   | 鋼管の可接継ぎ手は他の鋼管より   |
|    |    |   |   | "         | 鋼管      | 規格外、異径(φ91.4)に計上 | 枚  | 20   | "     |   | 但し、継ぎ手は考慮し計上した。計上 |
|    |    |   |   | 受弁        | マンホール   | JIS-R-5210       | 本  | 600  | 80    |   | 等の組合せを考慮し計上した。計上  |
|    |    |   |   | "         | マンホール   | JIS-R-5210       | 本  | 600  | 80    |   | 40%入り(深さ1.5m)     |





インドネシア各主要都市排水管材料

表 229- (4)

| 品名 | 工種 | 種 | 材料名        | 規         | 材                        | 単位 | 数量   | 用途 | 備                         | 号        |
|----|----|---|------------|-----------|--------------------------|----|------|----|---------------------------|----------|
|    |    |   | マンホール      | φ600      | 60 x 60 x 9.5cm          | 片  | 2    |    |                           |          |
|    |    |   | マンホール蓋     | φ600      |                          | 片  | 2    |    |                           |          |
|    |    |   | 受水パイプ      | マンホール     | JIS-K-5210               | 袋  | 40   |    | 40袋 (混和骨砕石)               |          |
|    |    |   | 給水管        | 硬質塩化ビニル管  | φ100 VP JIS-K-6741 4m本   | m  | 1424 |    | 27~28 素材ロス%               |          |
|    |    |   |            | TS/パイプ    | φ100 TS JIS-K-6745       | 本  | 350  |    | 接着材塗                      |          |
|    |    |   |            | TS T字管    | φ100 x 100               | 本  | 20   |    |                           |          |
|    |    |   |            | TS 曲管     | φ100 x 90°               | 本  | 5    |    |                           |          |
|    |    |   |            |           | φ100 x 45°               | 本  | 5    |    |                           |          |
|    |    |   |            |           | φ100 x 22.5°             | 本  | 5    |    |                           |          |
|    |    |   |            |           | φ100 x 11.25°            | 本  | 5    |    |                           |          |
|    |    |   | パイプ        | φ100      |                          | 本  | 5    |    |                           |          |
|    |    |   | 制水弁        | φ100      | JIS-B-2062               | 本  | 20   |    |                           |          |
|    |    |   | フレキシブルパイプ  | φ100      | JIS-B-2062               | 本  | 10   |    |                           | MF継手2寸5分 |
|    |    |   | 空気弁 (単口)   | φ25       | JIS-B-2063               | 本  | 5    |    |                           |          |
|    |    |   | 空気弁用立上り管   | φ25 (銅管)  | JIS-G-3474 (L=5.5)       | 本  | 1    |    |                           |          |
|    |    |   | 分岐パイプ      | φ100      | 1種 JIS-A-5520            | 本  | 5    |    |                           |          |
|    |    |   | マンホール      | φ600      | 60 x 60 x 9.5cm          | 本  | 15   |    |                           |          |
|    |    |   | マンホール蓋     | φ600      |                          | 枚  | 15   |    |                           |          |
|    |    |   | 給水栓        | マンホールバルブ  | φ75 180°回転               | 本  | 20   |    |                           |          |
|    |    |   |            | 立上り管 無鉄管  | φ75 φ=0.0mm 定尺4m本        | m  | 16   |    |                           |          |
|    |    |   |            | パイプ/パイプ   | φ75                      | 本  | 20   |    |                           |          |
|    |    |   | 石綿パイプ (9種) | φ150      | φ=1.0mm/1本 定尺4m本         | 本  | 5    |    |                           |          |
|    |    |   | 散水パイプ      | 給水栓付パイプ   | φ50mm 2=4.0mm (2.5分)     | 本  | 20   |    | 27~28 同27.28より、此の材質が好ましく、 |          |
|    |    |   |            | 継手付パイプ    | φ50mm 1=4.0mm (1.0分)     | 本  | 60   |    | 但し、スワッピングに代わってこの仕         |          |
|    |    |   |            | パイプ付三脚パイプ | (1.0分)                   | 本  | 20   |    | 能なパイプのものをお勧めします。          |          |
|    |    |   |            | パイプ       | φ50                      | 本  | 4    |    |                           |          |
|    |    |   |            | パイプ       | φ50                      | 本  | 4    |    |                           |          |
|    |    |   |            | 継手付パイプ    | φ50 φ=1.2mm x 4mm (1.0分) | m  | 40   |    |                           |          |
|    |    |   |            | パイプ       | φ50 φ=4.7mm x 2mm (1.0分) | 本  | 5    |    |                           |          |

工種別材料表 (4)

| 材料名  | 工種 | 材料名     | 規格                              | 材 | 単位 | 数量  | 必要図面  | 備            | 号 |
|------|----|---------|---------------------------------|---|----|-----|-------|--------------|---|
|      |    | 丁字管     | 50x50                           |   | ヶ  | 2   |       |              |   |
|      |    | パイプ材    | φ75 170 吐量 74.6 1/4" (20kg)     |   | ヶ  | 20  |       |              |   |
|      |    |         | 仕用 3.9 1/4" (20kg) 1/4 x 11/16" |   |    |     |       |              |   |
| 基礎部分 |    | コンクリート  | 40kPa 220V 60Hz                 |   | 坪  | 2   | BT    |              |   |
|      |    | トラン     | 220V/100V                       |   | "  | 1   | "     |              |   |
|      |    | 釘       | 屋内屋根                            |   | ヶ  | 1   | "     |              |   |
|      |    | ナット     | 20kg                            |   | "  | 2   |       |              |   |
| 基礎部分 |    | コンクリート  | 普通コンクリート JIS-5-210              |   | 袋  | 750 | 40kPa | 40kPa (混和割合) |   |
|      |    | 異形鉄筋    | D19 JIS-G-3112 定尺 6m            |   | 本  | 200 | "     | 結束線 (直径 9mm) |   |
|      |    | 普通鉄筋    | SRA JIS-G-3112 6m               |   | "  | 40  | "     | "            |   |
|      |    | "       | SR24 JIS-G-3112 6m              |   | "  | 70  | "     | "            |   |
|      |    | 伸縮地     | 5-20cm                          |   | 坪  | 4   | "     | "            |   |
|      |    | パンクロー   | 500                             |   | ヶ  | 1   | "     | "            |   |
|      |    | スチールパイプ | φ50 x 2.5mm OP 5-9-群            |   | ヶ  | 1   | "     | "            |   |
|      |    | アクリル    | 引線 1200 x 900                   |   | ヶ  | 4   | "     | 防雨           |   |
|      |    | アクリル    | 雨戸 1200 x 1600                  |   | ヶ  | 1   | "     | "            |   |
|      |    | ガラス     | 6.8mm 厚                         |   | 坪  | 2   | "     | "            |   |
|      |    | その他材料   | 40kg 1kg 参照                     |   |    |     |       |              |   |
| 柱    |    | 本体      | H=600 700 x 400 鋼材 45°          |   | ヶ  | 1   |       |              |   |
|      |    | 荷台      | 運搬能力 200kg                      |   | ヶ  | 1   |       |              |   |
|      |    | ローラ     | 60 x 60mm                       |   | 個  | 100 |       |              |   |
|      |    | ローラ     | (5ヶ付)                           |   | 本  | 50  |       |              |   |
|      |    | 支持器具    | ( " )                           |   | ヶ  | 50  |       |              |   |
|      |    | ストッパー   | ( " )                           |   | "  | 2   |       |              |   |

三上平工下置受配部車兼座手換材

兼座サアセンター(1)

| 概数名  | 工種     | 備材名                  | 規  | 材       | 単位 | 数  | 仕様 | 備 | 名           |
|------|--------|----------------------|--|---------|----|----|----|---|-------------|
| 取水配管 | 取水工    | 塩化ビニル管               | 口径 1200                                    | L=2.40m | 本  | 2  |    |   |             |
|      |        | 角鋼                   | 口径 100                                     | L=1.00m | "  | 1  |    |   |             |
|      |        | 鉄                    | 口径 100                                     | φ=8.0mm | 根  | 1  |    |   |             |
|      | ポンプ、バス | 兼座センター、取水            | 規格、ポンプ、バス、全、同じ                             |         |    |    |    |   | 99~100      |
|      | ポンプ、機材 | 井筒、吸込ポンプ             | 口径 1200mm 吐出量 1.19m <sup>3</sup> /min 全備機材 |         | 台  | 2  |    |   | 20          |
|      |        | 加圧エンジン               | 回転数 1700rpm 出力 8PS 吐出式                     |         |    | 2  |    |   | "           |
|      |        | スリッパバルブ              | 口径 1200mm 単相ポンプ用エンジン                       |         | "  | 2  |    |   | "           |
|      |        | フットバルブ               | 口径 1200mm                                  |         | "  | 2  |    |   | "           |
|      |        | 自動遠心ポンプ              | 口径 1200mm                                  |         | "  | 2  |    |   | "           |
|      |        | 圧力計                  | 口径 1200mm                                  |         | 個  | 2  |    |   | "           |
|      |        | 真鍮材                  | 口径 1200mm                                  |         | "  | 2  |    |   | "           |
|      |        | 溶剤                   | 口径 1200mm                                  |         | 台  | 2  |    |   | "           |
|      |        | マフラー                 | 口径 1200mm                                  |         | "  | 2  |    |   | "           |
|      |        | その他所屬品               | (管、ホシ、表盤等)                                 |         | 式  | 1  |    |   | "           |
| 室内配管 |        | パイプ、鉄管               | 口径 100 A型 種 4m                             |         | m  | 22 |    |   | 20x50 (10管) |
| 取込配管 |        | "                    | 口径 150 " " "                               |         | "  | 4  |    |   | "           |
|      |        | "                    | 口径 100 x 90                                |         | "  | 4  |    |   | "           |
|      |        | "                    | 口径 150 x 90                                |         | "  | 1  |    |   | "           |
|      |        | "                    | 口径 150 x 150                               |         | "  | 1  |    |   | "           |
|      |        | "                    | 口径 100 x 150                               |         | "  | 2  |    |   | "           |
|      |        | "                    | 口径 100                                     |         | "  | 2  |    |   | "           |
| 取水配管 |        | 硬質塩化ビニル管             | 口径 150 JIS-K-6741 4m                       |         | m  | 40 |    |   | 管径 100% 見込  |
|      |        | JIS-V150             | 口径 150                                     |         | "  | 20 |    |   | (接続材)       |
|      |        | フレキシブル管 (JIS-KF6741) | 口径 150                                     |         | "  | 2  |    |   | "           |
|      |        | JIS 軟管               | 口径 150 x 90                                |         | "  | 1  |    |   | "           |
|      |        |                      | 口径 150 x 90 1/2                            |         | "  | 2  |    |   | "           |

表 2-1 水泵安裝材料單表與材料

| 材料名         | 規格  | 單位 | 數量    | 備註 | 備             | 層 |
|-------------|---|----|-------|----|---------------|---|
| φ150×11/4   |   | ヶ  | 49    |    |               |   |
| 普通ホシロ       | JIS-R-5210  | 袋  | 1210  |    | 切込用 (泥水用等)    |   |
| 異形鉄筋 D10    | JIS-G-3112 架下 17本   | 本  | 205   |    | 鋼材 2.9% (貯水用) |   |
| 普通角鋼 φ100   | "   | ヶ  | 260   |    | "             |   |
| 工字鉄骨        | SR24  | ヶ  | 27    |    | "             |   |
| クワルバ        | E=30mm x 27mm   | 枚  | 179   |    |               |   |
| 埋込管 φ20     | φ16mm L=47本 SR24 JIS-G-3112   | 本  | 24    |    |               |   |
| 余水吐管 VPφ150 | TIS-K-6741 47本  | ML | 27.6  |    |               |   |
| "           | "   | "  | 44    |    |               |   |
| "           | φ150x4150   | ヶ  | 1     |    |               |   |
| "           | φ150x900  | ヶ  | 1     |    |               |   |
| "           | TIS-K-6741 47本  | ML | 16    |    |               |   |
| "           | φ150x75   | ヶ  | 4     |    |               |   |
| "           | φ150x90   | ヶ  | 4     |    |               |   |
| "           | φ150x50   | ヶ  | 4     |    |               |   |
| アークトリスバルブ   | φ125 10ヶ (在り)   | 組  | 1     |    | 貯水用           |   |
| 制水弁         | φ200  | ヶ  | 1     |    | "             |   |
| スズレスバルブ     | φ48x4x30 L=47本  | ML | 27    |    |               |   |
| バルブ         | H=120mm φ1800   | ヶ  | 1     |    |               |   |
| φ150 管      | φ150 L=2.99m  | 本  | 1     |    |               |   |
| マンホール鉄蓋     | φ450  | 組  | 1     |    |               |   |
| 鉄鋼板         | φ202mm 1.40x1.50  | kg | 52.5  |    |               |   |
| 等厚鉄板        | φ202mm 1.40x1.50  | kg | 19.92 |    |               |   |
| その他材料       |   |    |       |    |               |   |
| 加圧ポンプ       | φ125, 吐水量 1.79m <sup>3</sup> /min 揚程 61m<br>空力 40mm, 回転数 1700rpm 5級 | 台  | 2     |    |               |   |
| バルブ         | φ100, 220x 60Hx   | "  | 2     |    |               |   |
| バルブ         | φ125  | "  | 2     |    |               |   |
| バルブ         | φ125  | "  | 2     |    |               |   |
| その他材料       | (在り) 真空計 1台 (在り)  | 式  | 1     |    |               |   |
| 弁蓋          | φ425x150  | ヶ  | 1     |    |               |   |

仁平工務店 建築材料集約表

表名: 建築材料集約表 (分)

| 品名    | 工種 | 品名                   | 規格                        | 材種    | 単位 | 数量   | 用途    | 備考                      |
|-------|----|----------------------|---------------------------|-------|----|------|-------|-------------------------|
| 給水管   | 配管 | 鉄管 (2寸)              | φ125                      | 鋼管    | m  | 12.6 | 29    |                         |
|       |    | 鉄管 (2寸)              | φ125 × 900                | 鋼管    | ヶ  | 1    |       | フランジ舎                   |
|       |    | 鉄管 (2寸)              | φ125 × 125                | 鋼管    | ヶ  | 1    |       |                         |
|       |    | 鉄管 (2寸)              | φ125                      | 鋼管    | ヶ  | 1    |       |                         |
|       |    | 鉄管 (2寸)              | φ125                      | 鋼管    | ヶ  | 1    |       | フランジ舎                   |
|       |    | 鉄管 (2寸)              | φ125 × 60 × 1800          | 鋼管    | ヶ  | 1    |       |                         |
|       |    | 鉄管 (2寸)              | φ125 × 60 × 1800          | 鋼管    | ヶ  | 1    |       |                         |
|       |    | 鉄管 (2寸)              | φ125 × 60 × 1800          | 鋼管    | ヶ  | 1    |       |                         |
|       |    | 鉄管 (2寸)              | φ125 × 60 × 1800          | 鋼管    | ヶ  | 1    |       |                         |
|       |    | 鉄管 (2寸)              | φ125 × 60 × 1800          | 鋼管    | ヶ  | 1    |       |                         |
| 給水管   | 配管 | 硬質塩化ビニル管             | φ75 × 150 L=4m JIS-K-6174 | 塩化ビニル | m  | 1300 | 29~30 |                         |
|       |    | TS-Yケツト              |                           | 塩化ビニル | ヶ  | 225  |       | 掃帚材舎                    |
|       |    | TS-キズ                | φ150 × 150                | 塩化ビニル | ヶ  | 1    |       |                         |
|       |    | TS-キズ                | φ150 × 100                | 塩化ビニル | ヶ  | 22   |       |                         |
|       |    | TS-エルボ               | φ150 × 90°                | 塩化ビニル | ヶ  | 1    |       |                         |
|       |    | スルスバルブ               | φ150                      | 塩化ビニル | ヶ  | 4    |       |                         |
|       |    | 管差子                  | φ150                      | 塩化ビニル | ヶ  | 3    |       |                         |
|       |    | 谷崎ナット                | φ150                      | 塩化ビニル | ヶ  | 3    |       |                         |
|       |    | フレキシブルジョイント (2寸KF継手) |                           | 塩化ビニル | ヶ  | 4    |       |                         |
|       |    | マンホール                | φ200 C 60 × 60 × 90cm     | 塩化ビニル | ヶ  | 7    |       |                         |
| 散水シート | 配管 | 硬質塩化ビニル管             | φ50 L=500                 | 塩化ビニル | ヶ  | 120  | 29    | 散水シート他同等の (別アリス、ホース等不可) |
|       |    | シート付 三層ラテ管           |                           | 塩化ビニル | ヶ  | 40   |       |                         |
|       |    | シート (給水用)            | φ20                       | 塩化ビニル | ヶ  | 40   |       |                         |
|       |    | シート                  | φ50                       | 塩化ビニル | ヶ  | 4    |       |                         |
|       |    | シート                  | φ50                       | 塩化ビニル | ヶ  | 40   |       |                         |
|       |    | シート                  | φ50                       | 塩化ビニル | ヶ  | 4    |       |                         |
|       |    | シート                  | φ50                       | 塩化ビニル | ヶ  | 4    |       |                         |
|       |    | シート                  | φ50                       | 塩化ビニル | ヶ  | 4    |       |                         |
|       |    | シート                  | φ50                       | 塩化ビニル | ヶ  | 4    |       |                         |
|       |    | シート                  | φ50                       | 塩化ビニル | ヶ  | 4    |       |                         |
| 散水シート | 配管 | TS-継手                | φ75 × 75                  | 塩化ビニル | ヶ  | 10   |       |                         |
|       |    | TS-継手                | φ75 × 75                  | 塩化ビニル | ヶ  | 48   |       |                         |
|       |    | TS-継手                | φ75 × 75                  | 塩化ビニル | ヶ  | 90   |       |                         |
|       |    | TS-継手                | φ75 × 75                  | 塩化ビニル | ヶ  | 40   |       |                         |
|       |    | TS-継手                | φ75 × 75                  | 塩化ビニル | ヶ  | 40   |       |                         |
|       |    | TS-継手                | φ75 × 75                  | 塩化ビニル | ヶ  | 40   |       |                         |
|       |    | TS-継手                | φ75 × 75                  | 塩化ビニル | ヶ  | 40   |       |                         |
|       |    | TS-継手                | φ75 × 75                  | 塩化ビニル | ヶ  | 40   |       |                         |
|       |    | TS-継手                | φ75 × 75                  | 塩化ビニル | ヶ  | 40   |       |                         |
|       |    | TS-継手                | φ75 × 75                  | 塩化ビニル | ヶ  | 40   |       |                         |

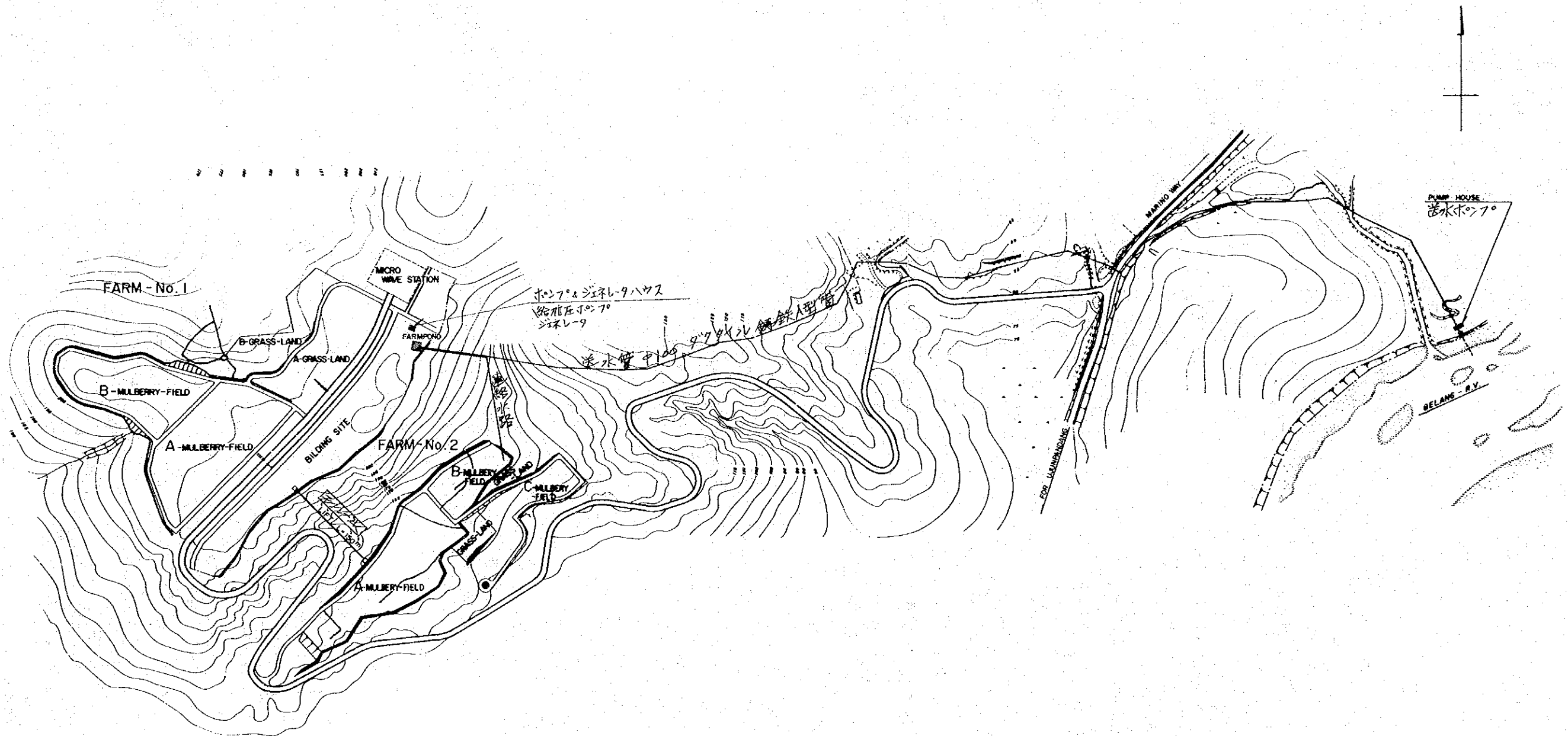






# PLAN MAP OF SERICULTURE CENTRE AT BILI-BILI

S · 1 : 2 000

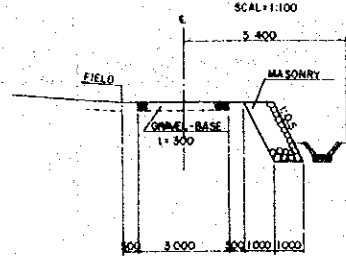


|   |                                   |             |        |
|---|-----------------------------------|-------------|--------|
| SERICULTURAL DEVELOPMENT PROJECT IN INDONESIA |                                   |             |        |
| PLAN MAP OF SERICULTURE CENTRE AT BILI-BILI   |                                   |             |        |
| SCALE 1 : 2 000                               |                                   |             |        |
| JAPAN   | INTERNATIONAL                     | COOPERATION | AGENCY |
|   | TEIKYO                            | JAPAN       |        |
| DESIGNED                                      | TAIYO CONSULTANTS COMPANY LIMITED | DATE        |        |
| APPROVED                                      |                                   | FIGURE NO.  | 1      |

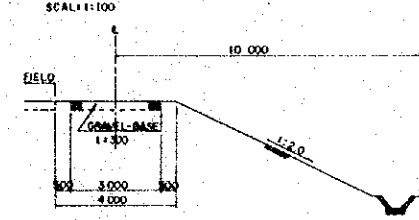
# SERICULTURE CENTRE

SCALE: 1:500  
TOTAL AREA = 4.98<sup>ha</sup>

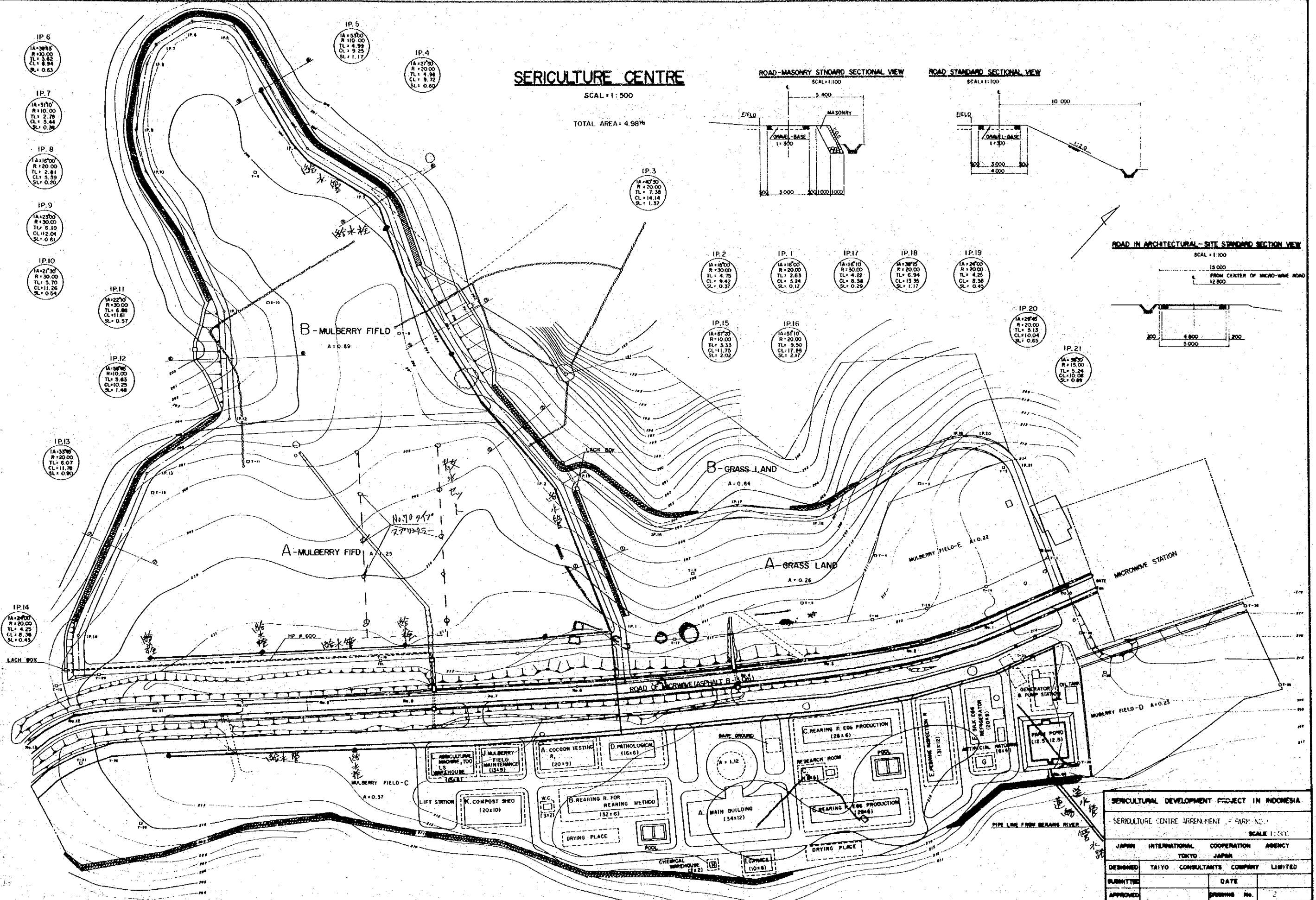
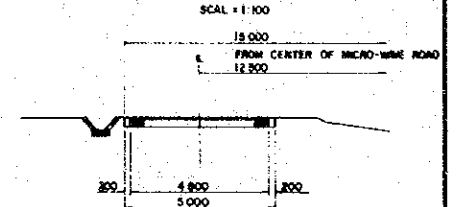
ROAD-MASONRY STANDARD SECTIONAL VIEW  
SCALE: 1:100



ROAD STANDARD SECTIONAL VIEW  
SCALE: 1:100



ROAD IN ARCHITECTURAL - SITE STANDARD SECTION VIEW  
SCALE: 1:100

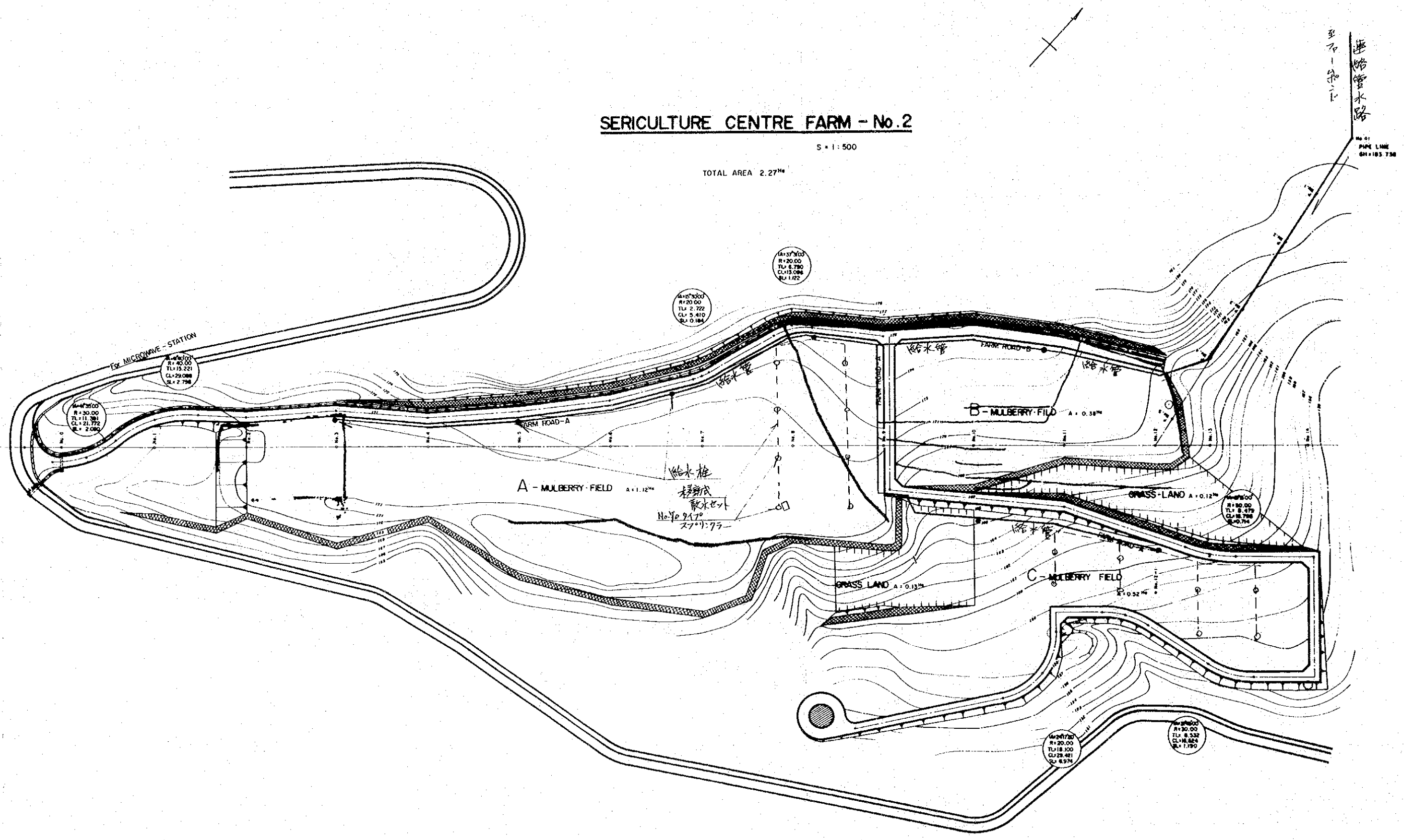


|   |  |               |  |
|---|--|---------------|--|
| SERICULTURAL DEVELOPMENT PROJECT IN INDONESIA |  |               |  |
| SERICULTURE CENTRE AGREEMENT - PARK NO. 1     |  |               |  |
| SCALE: 1:500                                  |  |               |  |
| JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY        |  | TOKYO JAPAN   |  |
| DESIGNED: TAIYO CONSULTANTS COMPANY LIMITED   |  |               |  |
| SUBMITTED:                                    |  | DATE:         |  |
| APPROVED:                                     |  | DIBAWAS No. 2 |  |

# SERICULTURE CENTRE FARM - No.2

5 : 1 : 500

TOTAL AREA 2.27<sup>HA</sup>



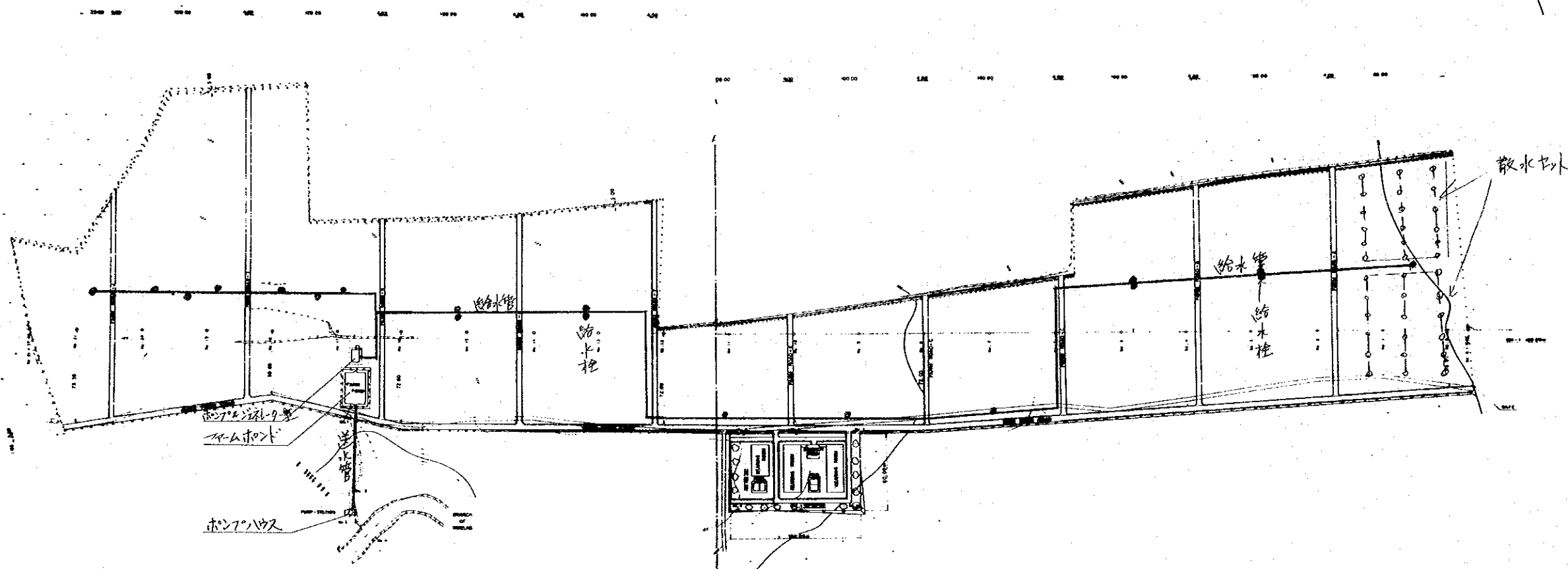
|   |                                   |             |   |
|---|-----------------------------------|-------------|---|
| SERICULTURAL DEVELOPMENT PROJECT IN INDONESIA |                                   |             |   |
| SERICULTURE CENTRE ARRANGMENT OF FARM NO. 2   |                                   |             |   |
| SCALE 1 : 500                                 |                                   |             |   |
| JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY        |                                   | TOKYO JAPAN |   |
| DESIGNED                                      | TAIYO CONSULTANTS COMPANY LIMITED | DATE        |   |
| SUBMITTED                                     |                                   | DATE        |   |
| APPROVED                                      |                                   | DRAWING No. | 3 |

SERICULTURE SUB CENTRE NEW FIELD

5:1:1,000

SERICULTURE SUB CENTRE NEW FIELD

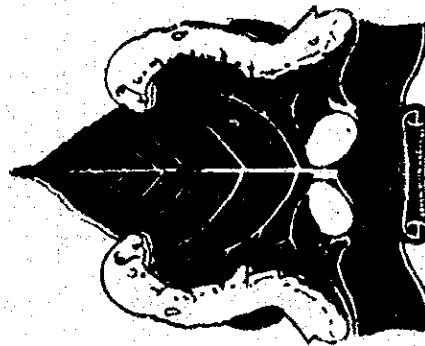
5:1:1,000



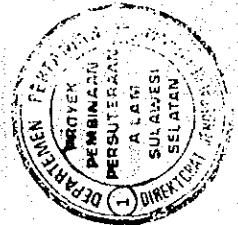
|                                  |      |         |      |
|----------------------------------|------|---------|------|
| SERICULTURE SUB CENTRE NEW FIELD |      |         |      |
| DATE: 1971.10.10                 |      |         |      |
| SCALE: 1:5000                    |      |         |      |
| DESIGNER                         | DATE | CHECKER | DATE |
| APPROVER                         | DATE | CHECKER | DATE |



GENERAL INFORMATION  
OF SERICULTURE DEVELOPMENT PROJECT  
IN  
SOUTH SULAWESI  
1979 / 1980



PROJECT OF SERICULTURE DEVELOPMENT  
SOUTH SULAWESI  
1979

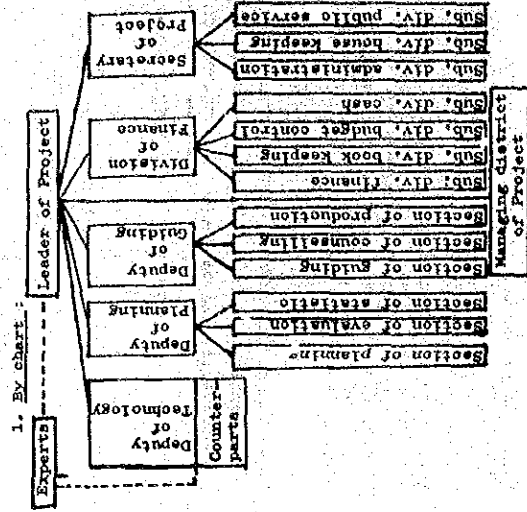


A. F U N C T I O N

1. Planning
  - 1.1. To arrange the operation plan.
  - 1.2. To arrange the proposal project.
  - 1.3. To arrange the working schedule.
  - 1.4. Reporting and recording.
  - 1.5. Evaluation.
2. Guiding
  - 2.1. To guide the activities and personnel management.
  - 2.2. To give technical assistance to the sericulture farmers.
    - Cultivation method of mulberry field.
    - Pest and disease control.
    - Modelling of rearing house and equipments rearing of grown silkworm.
    - Cocooning and harvesting method.
    - Sorting, drying and transportation of cocoons.
    - Reeling method by using semi machinal equipment.
  - 2.3. Counseling to the public.
    - Through film, slide and showing development.
    - Booklets, brochures and technical guidance book.
    - Uniformity method for the guiding officials.
    - Meeting and discussion with the sericulture farmers group.
  - 2.4. To built demonstration plot.
  - 2.5. Training of the technical officials and sericulture farmers.
    - Training of counseling officials.
    - Training of sericulture farmers.
    - To support counterparts trainees to Japan.
3. Applied technical cooperation with the government of Japan.
  - 3.1. The master plant of the project. The project will be implemented in a sericulture development centre, Sub centre and farmers groups.
    - 3.1.1. The centre have been established in Billi-Billi (Gowa), and the following activities will be conducted :
      - Construction, maintenance and management of mulberry field.
      - Trial experiments to develop techniques for sericulture and for the control of pests and diseases of mulberry.
      - Trial experiments to develop techniques for silkworm rearing and for the control of pests and diseases of silkworm.
      - Production of silkworm eggs and distribution there of to the Sub Centre.
      - Training of Indonesia technical staffs.
      - Formulation of a programme for demonstration of sericultural techniques at the farmers' groups.
    - 3.1.2. The Sub Centre have been established in Tajumcu/Panah Balleage (Soppang), and the following activities will be conducted :

- Verifying experiments of the sericulture techniques developed in the Centre.
  - Introduction and demonstration of the improved sericultural techniques adaptable at the farmers' level.
  - Multiplication of silkworm eggs and mulberry shoots for cutting and distribution to the farmers.
  - Training of technical staffs and farmers.
  - Guidance for the demonstration of sericultural techniques at the farmers' groups.
- 3.1.3. Sericulture techniques developed at the Sub Centre will be demonstrated in five farmers' groups (Soppang = 2, MaJo = 1, Sidrap = 1 and Burekang = 1). The farmers' groups will be selected from the existing groups.
- 3.2. Activity in 1979 / 1980.
- 3.2.1. To take care of the smoothness activities of the experts and counterparts/Project.
  - 3.2.2. To coordinate the working plan with the experts and Counterparts.
  - 3.2.3. To discuss about the problem of sericulture techniques, production of silkworm eggs, trial experiments, technical cooperation etc.
  - 3.2.4. To make and arrange the technical Report, result of examination/experiment of expert and Counterpart.

B. ORGANIZATION



|                          |  |     |         |  |  |
|--------------------------|--|-----|---------|--|--|
| 2. By function:          |  |     |         |  |  |
| Total                    |  | 290 | persons |  |  |
| Sericulture Technicians  |  | 222 | persons |  |  |
| Machinery technicians    |  | 9   | persons |  |  |
| Administration Officials |  | 59  | persons |  |  |

|                                |            |         |                    |             |                   |
|--------------------------------|------------|---------|--------------------|-------------|-------------------|
| 3. By allocation of personnel: |            |         |                    |             |                   |
| Level of education             | University | Academy | Senior high school | High school | Elementary school |
| Location                       |            |         |                    |             |                   |
| Total                          | 290        | 20      | 6                  | 146         | 40                |
| Ujung Pandang/Bili-Bili office | 67         | 7       | 4                  | 29          | 3                 |
| Dati II Soppeng                | 123        | 10      | 2                  | 46          | 27                |
| Dati II Enrekang               | 43         | 1       | -                  | 25          | 7                 |
| Dati II Sidrap                 | 30         | 1       | -                  | 24          | 2                 |
| Dati II Wajo                   | 27         | 1       | -                  | 22          | 1                 |

#### C. LOCATIONS OF PROJECT:

- Kabupaten Dati II Gowa
  - Kabupaten Dati II Soppeng
  - Kabupaten Dati II Enrekang
  - Kabupaten Dati II Sidrap
  - Others
- D. KIND OF ACTIVITY (1979/1980):
- Testing of new technology (32 titles of activities):
    - Kabupaten Gowa, Bili-Bili 16 activities.
    - Tajuncu, Tanah Bellange, Kabupaten Soppeng 36 activities.
  - Preparation of mulberry field 4 Ha.
    - Tanah Bellange, Kabupaten Soppeng 2,5 Ha.
    - Baraka, Enrekang 1,5 Ha.
  - Cultivation of mulberry fields 60 Ha.
    - Bili-Bili, Pakatto Kabupaten Gowa 7 Ha.
    - Tajuncu, Tanah Bellange, Pising Kabupaten Soppeng 32 Ha.
    - Sudu, Saludolek, Gunung Kelinci dan Baraka, Kabupaten Enrekang 10 Ha.
    - Sabang Paru, Wajo, Kabupaten Wajo 1,5 Ha.
    - Massevoi & Lavavoi, Kabupaten Sidrap 9,5 Ha.
  - Production of 10,000 boxes of P2 eggs:
    - Egg production in Tajuncu, Kabupaten Soppeng 7,500 boxes.
    - Egg production in Sudu Kabupaten Enrekang 2,500 boxes.

- Reeling of raw silk 10,000 Kgs.
  - Reeling unit in Tajuncu, Kab. Soppeng 3,000 Kgs.
  - Reeling unit in Sudu, Kab. Enrekang 3,000 Kgs.
  - Reeling unit in Sabang Paru, Kab. Wajo 2,500 Kgs.
  - Reeling unit in Lavavoi, Kab. Sidrap 1,500 Kgs.
- Technical guidance to Sericulture farmers by 45 groups of technician counsellors.
  - Kabupaten Dati II Soppeng 5 groups.
  - Kabupaten Dati II Enrekang 4 groups.
  - Kabupaten Dati II Wajo 4 groups.
  - Kabupaten Dati II Sidrap 2 groups.
 (Each group consists of 3 technicians).
- To execute a practical training for 45 persons of Sericulture farmers.
  - 25 persons will be trained at Soppeng and 15 persons at Enrekang.
- To purchase land (2,56 Ha) in Soppeng.
  - For mulberry plantation 2,5 Ha.
  - Boarding house for counterparts 600 M2.
- To buy materials and equipments.
  - Materials and equipments for office requirements.
  - Materials and equipments for boarding house.
  - Materials and equipments for completing the installation of the equipments of the cooperation project.

#### 10. Construction

- Kabupaten Dati II Gowa
  - To build a boarding house in Bili-Bili (200 M2) completed with electricity.
  - One unit of telephone facility at Bili-Bili.
  - Two counterparts house at Pakatto.
  - To build a generator house and install the generator (10 KVA), piping system, electricity and barbed wire fence (300 M).
  - To build a stone barrier (500 M) to protect the pump house at Jenoberang river.
- Kabupaten Dati II Soppeng.
  - To build 2 young silkworm rearing houses & 90 M2 (pilot unit).
  - To build 2 houses for counterpart.
  - Construction of electricity installation in Tajuncu and Tanah Bellange.
  - Construction of 1 water pond complete with filtration system & 12 M3.
  - Construction of 1 water tank.
  - Construction of 1 oil tank.
- Kabupaten Dati II Enrekang.
  - To build one young silkworm rearing house & 90 M2 (pilot unit).
  - Construction of water pond completed with filtration system & 12 M3.
  - Erosion control work 250 M2.
  - Construction of oil tank.

- Kabupaten Dati II Wajo.
    - To build one young silkworm rearing house & 90 M2 (pilot unit).
    - Construction of one oil tank.
    - Kabupaten Dati II Sidrap.
      - To build one young silkworm rearing house & 90 M2 (pilot unit).
      - Construction of water pond completed with filtration system & 12 M3 (1).
      - Construction of one oil tank.
- E. B U D G E T IN 1979/1980.
- Technical guidance Rp. 223.727.000,-
  - Production guidance Rp. 72.220.000,-
  - Supervision and control Rp. 77.538.000,-
- T o t a l Rp. 373.485.000,-









JICA